

市民意見リーダー

調査結果報告書

(2019 年度)



郡山市

< 目 次 >

I 調 査 概 要

1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の設計	1
4. 集計・分析にあたって	2
5. グラフの種類	2
6. 回収率	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代別	3
(3) 職業別	3
(4) 居住年数別	3
(5) 居住形態別	3
(6) 地域別	4
(7) 現住所の直前の居住地別	5
(8) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)	5
8. 回答者の属性《地域別集計》	6

II 調 査 結 果

1. 郡山市の住みやすさなどについて	13
(1) 住みやすさへの評価	13
(2) 今後の居留意向	16
2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度	19
(1) まちづくりへの満足度結果一覧	19
(2) これからの取り組み重要度結果一覧	23
(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》	26
(4) 分野別属性別満足度結果	28
(5) 分野別属性別重要度結果	44
3. SDGs (エスディージーズ) の関心度について	46
(1) SDGs (エスディージーズ) の認知状況	46
(2) 国連のSDGs (エスディージーズ) の取り組みの認知状況	48
(3) 国のSDGs (エスディージーズ) の取り組みの認知状況	50
(4) SDGs (エスディージーズ) の関心度	52

4. 「郡山市子ども条例」について	54
(1) 「郡山市子ども条例」の認知状況	54
(2) 子どもを取り巻く大人たちの責務の認知状況	56
(3) 「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の認知状況	58
(4) 福島県ユニセフ協会との協定締結の認知状況	60
5. 市への意見や要望など	62
【分野Ⅰ】 産業・仕事の未来	62
【分野Ⅱ】 交流・観光の未来	63
【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来	63
【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来	64
【分野Ⅴ】 暮らしやすいまちの未来	65
【分野Ⅵ】 横断的取組	66
【分野Ⅶ】 基盤的取組	66
 (付) 調査票様式	
調査票	67

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

時代とともに変化する市民意見の動向と現在の多様なニーズを把握し、今後の本市施策、事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するために実施しました。

2. 調査の項目

- (1) 住みやすさについて…質問 2 問
- (2) まちづくりについて（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 7 分野 44 項目についての満足度）…質問 44 問
- (3) これからの取組について（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 7 分野 44 項目についての重要度）…質問 1 問
- (4) SDGs の関心度について…質問 4 問
- (5) 「郡山市子ども条例」について…質問 4 問
- (6) 対象者の基本属性について…質問 7 問 補助質問 1 問
- (7) 市への意見や要望など（自由記載）…質問 1 問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：郡山市全域
- (2) 調査対象：郡山市内に在住する満 18 歳以上の人
- (3) 標本数：1,500 人（男性 750 人、女性 750 人）

<内訳>

	標本数	性別		年代別							
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
全体	1,500	750	750	49	202	237	276	252	270	214	
地区別	旧市内	578	284	294	15	80	88	110	105	101	79
	富田	115	57	58	2	17	22	24	18	19	13
	大槻	145	71	74	4	18	24	26	24	26	23
	安積	152	75	77	4	21	26	28	24	25	24
	三穂田	22	11	11	2	2	2	4	4	4	4
	逢瀬	23	12	11	2	2	2	3	4	6	4
	片平	29	16	13	2	3	5	5	4	6	4
	喜久田	55	28	27	2	8	10	11	8	10	6
	日和田	47	24	23	2	6	8	9	8	8	6
	富久山	163	82	81	4	27	29	31	26	27	19
	湖南	18	9	9	2	2	2	2	2	4	4
	熱海	26	13	13	2	2	2	4	4	6	6
	田村	82	44	38	2	10	12	13	13	18	14
	西田	22	12	10	2	2	3	3	4	4	4
中田	23	12	11	2	2	2	3	4	6	4	

- (4) 抽出方法：住民基本台帳(令和元年5月6日現在)からの年代、地域を考慮した層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による調査票の配布・回収、インターネットでの返信
- (6) 調査期間：令和元年5月16日～令和元年5月31日(16日間)
- (7) その他：これまで「市民意識調査」として2009年度から実施。アンケートの回答は市民の皆様の意見としていただくものであることから、2018年度から「市民意見レーダー」と名称を変更

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値(%)は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢があります。

5. グラフの種類

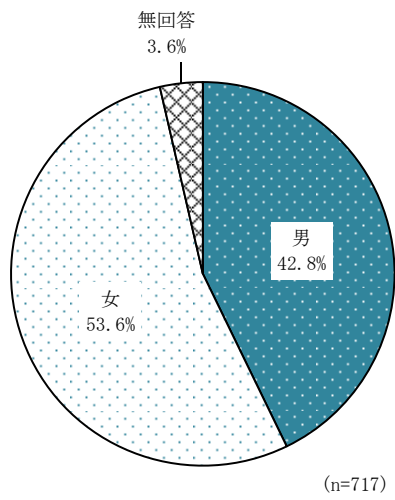
- (1) 棒グラフ：棒の長短で数量の大小を比較します。
- (2) 折れ線グラフ：時間経過を沿って数量の変化や傾向を示します。
- (3) 円グラフ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。
- (4) 帯グラフ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。異なる帯グラフを並べることで、項目の構成比の変化を捉えることができます。
- (5) 散布図：2つの変量の相関関係を示します。横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフです。

6. 回収率

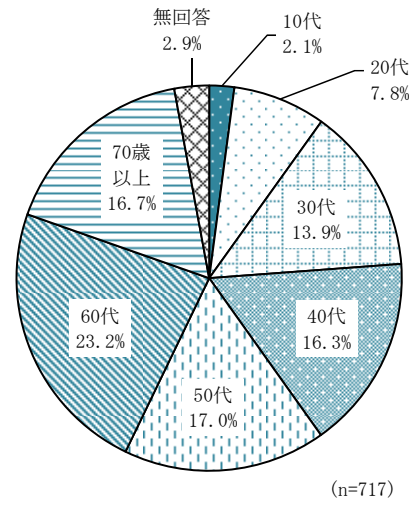
- (1) 有効回収数：717件
- (2) 有効回収率：47.8%(対前年比 +0.5%)

7. 回答者の属性

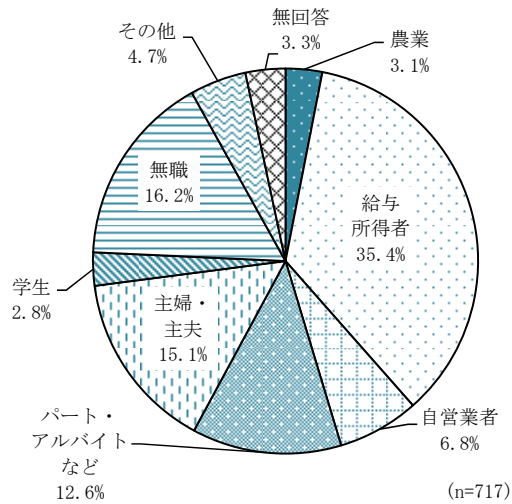
(1) 性別



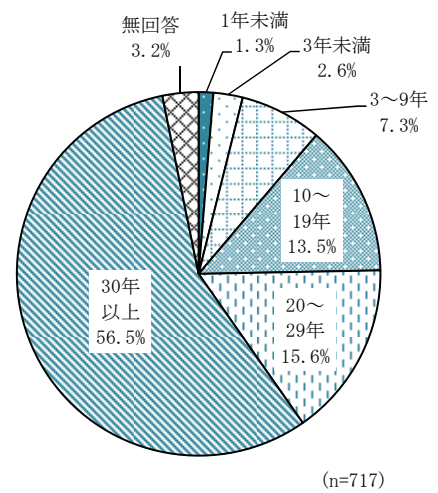
(2) 年代別



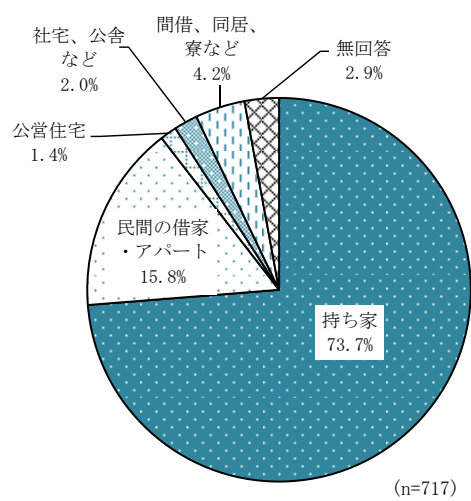
(3) 職業別



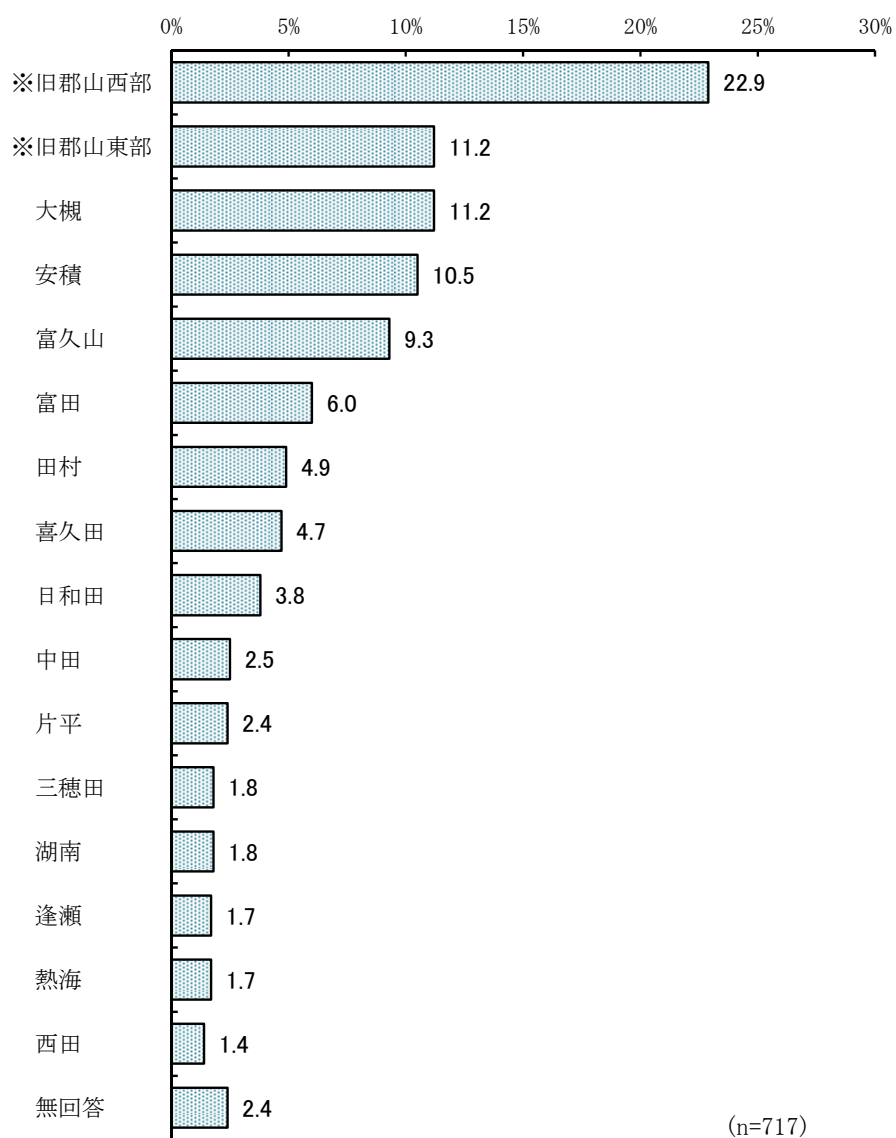
(4) 居住年数別



(5) 居住形態別



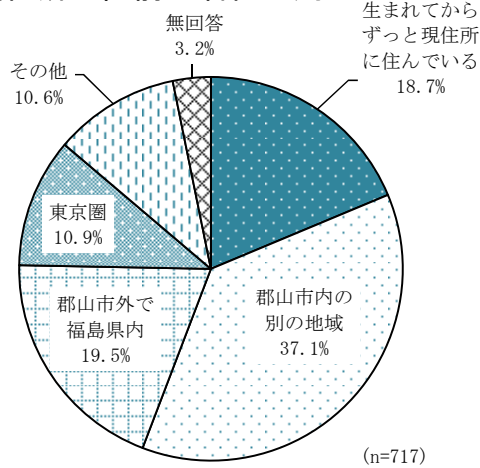
(6) 地域別



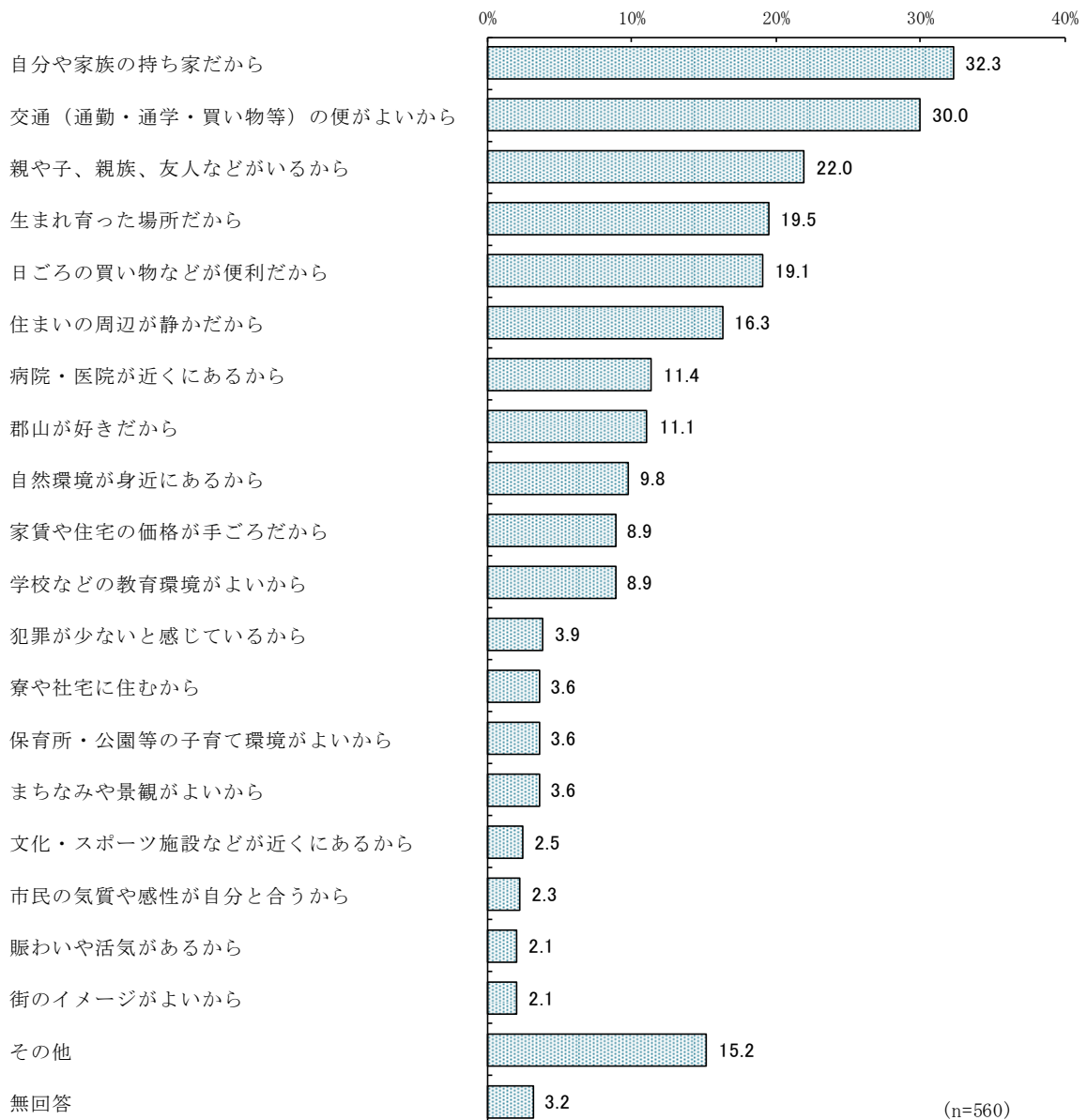
※ 旧郡山東部・・・芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など

※ 旧郡山西部・・・駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外

(7) 現住所の直前の居住地別

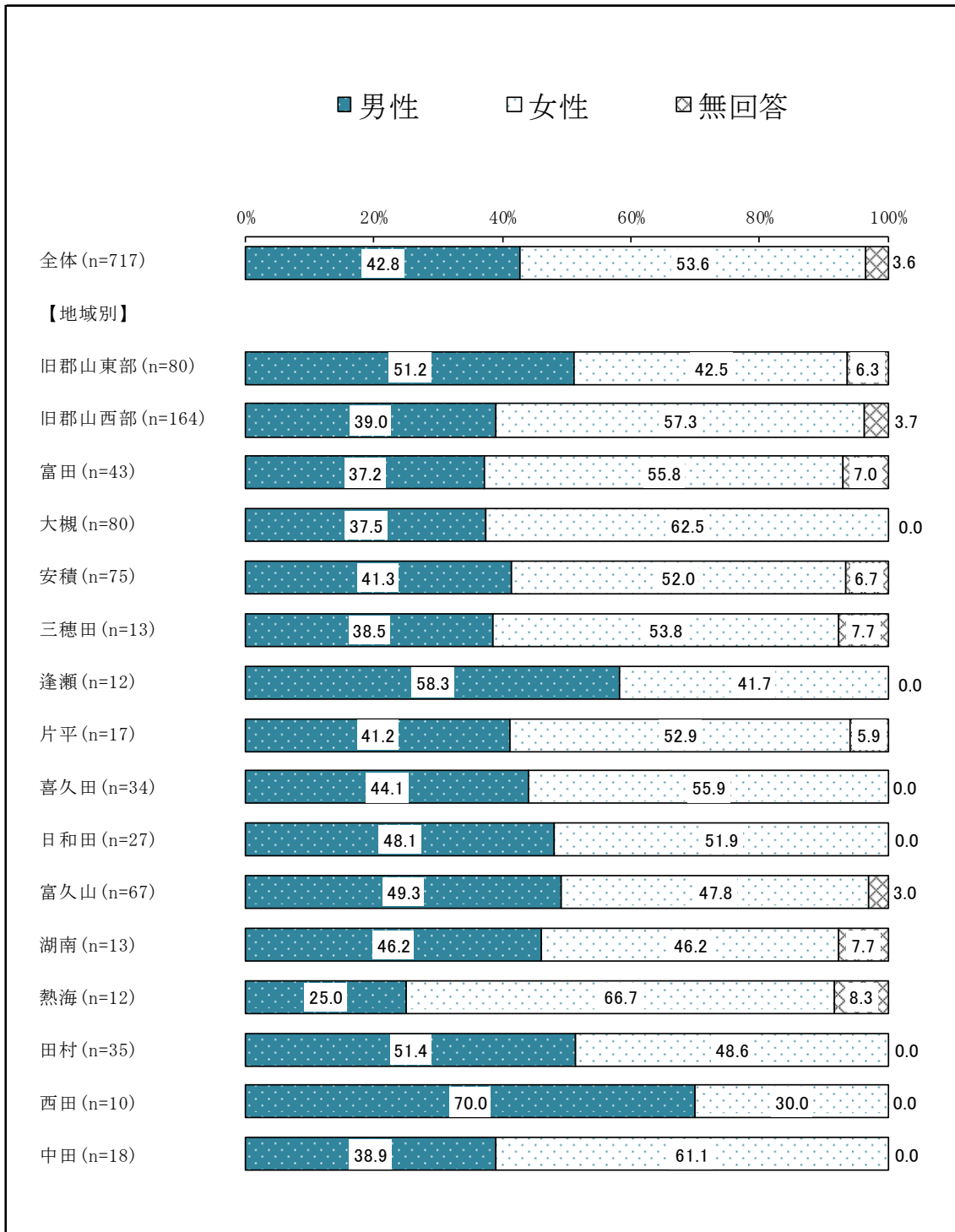


(8) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)

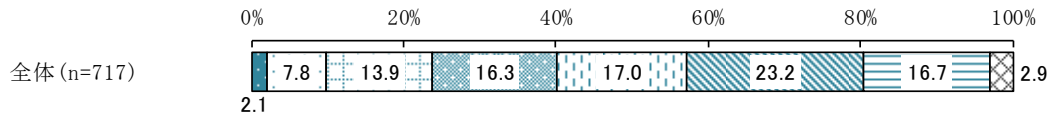
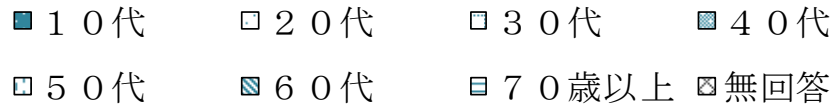


8. 回答者の属性《地域別集計》

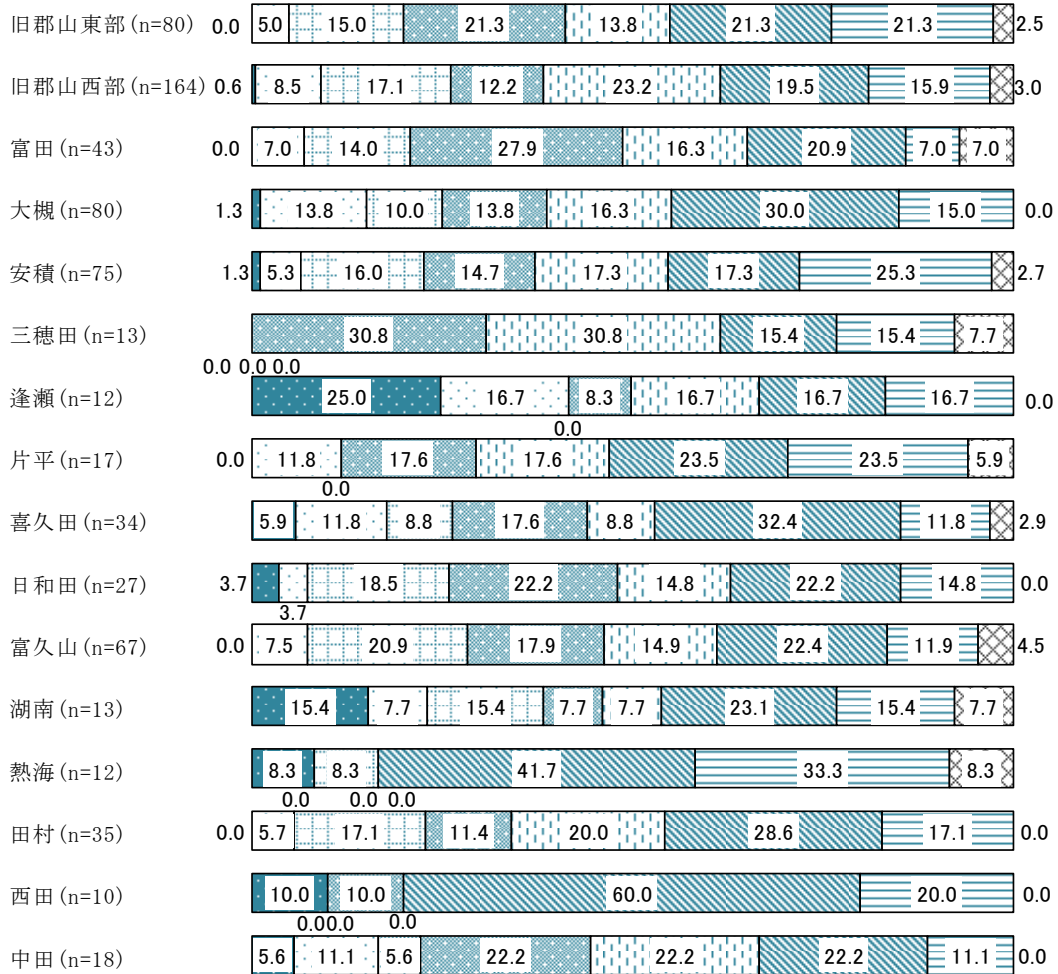
【性別】



【年代別】

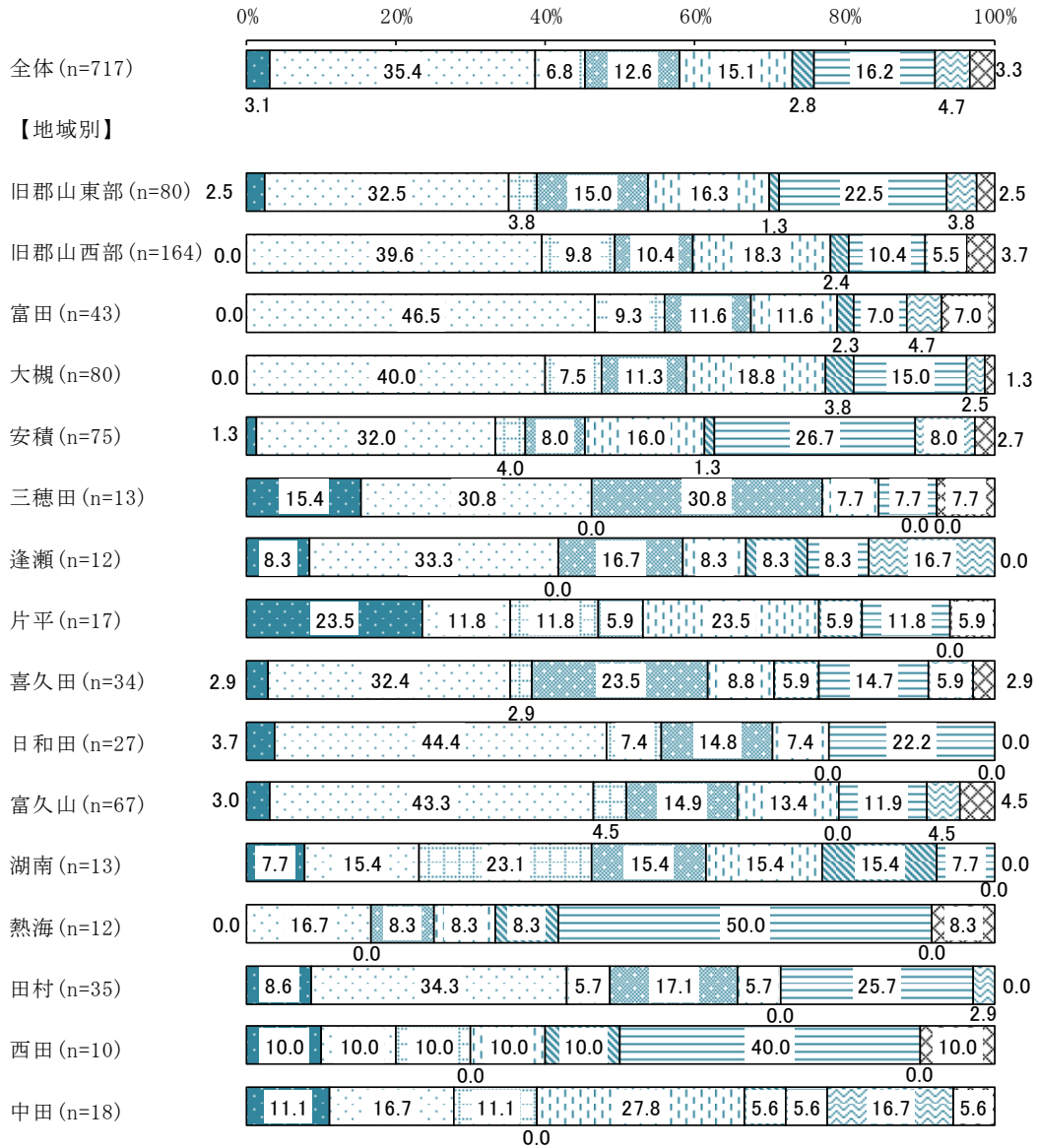


【地域別】

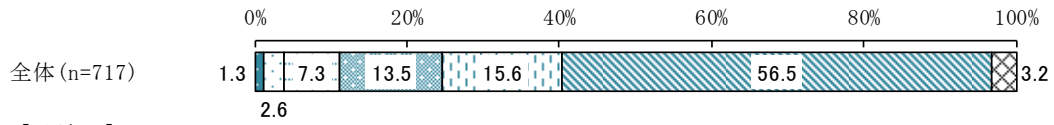
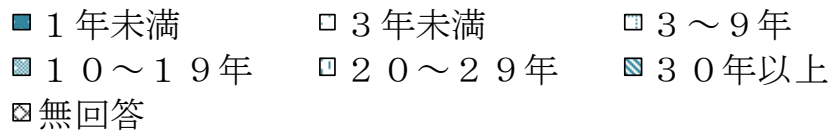


【職業別】

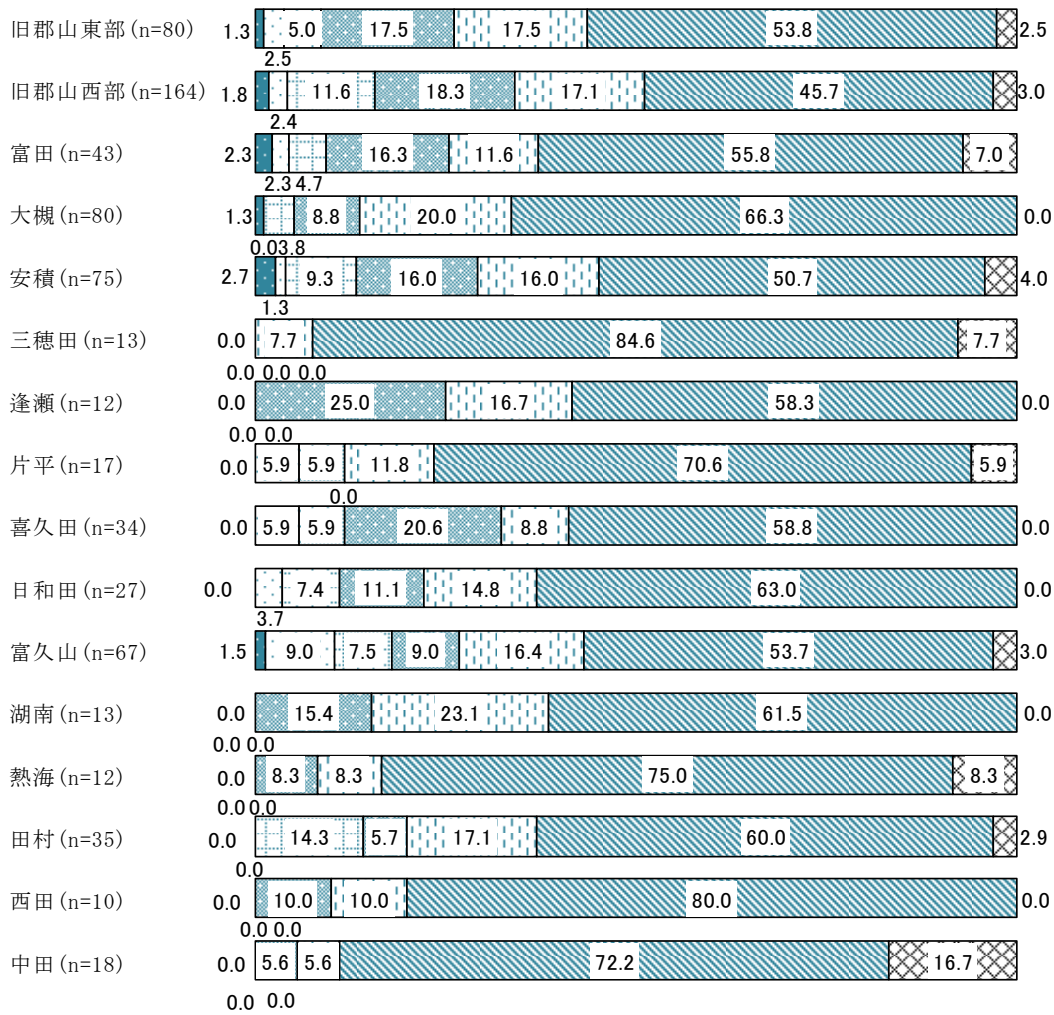
- 農業
- 給与所得者
- ▨ 自営業者
- パート・アルバイトなど
- 主婦・主夫
- ▨ 学生
- 無職
- ▨ その他
- ▨ 無回答



【居住年数別】

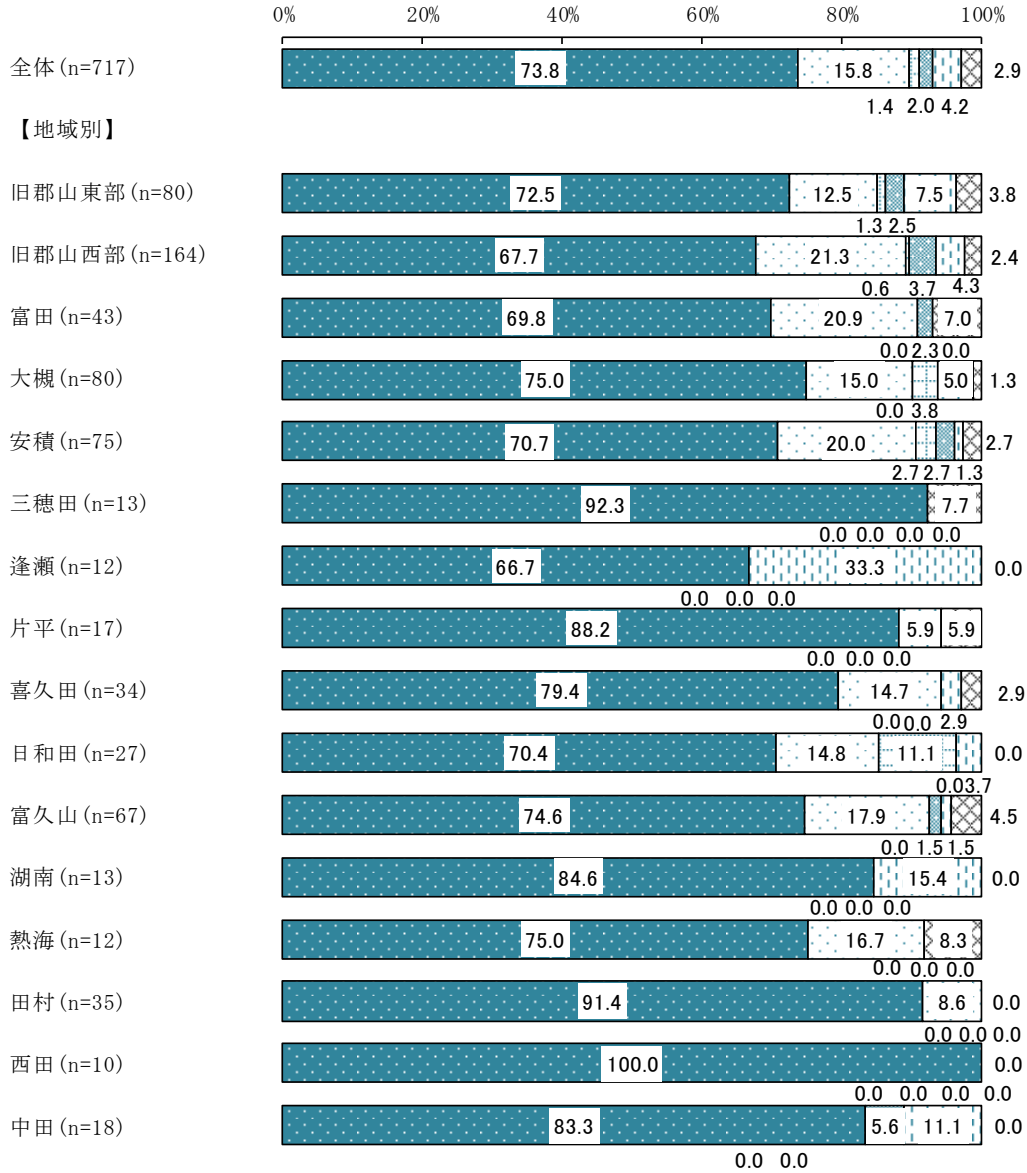


【地域別】

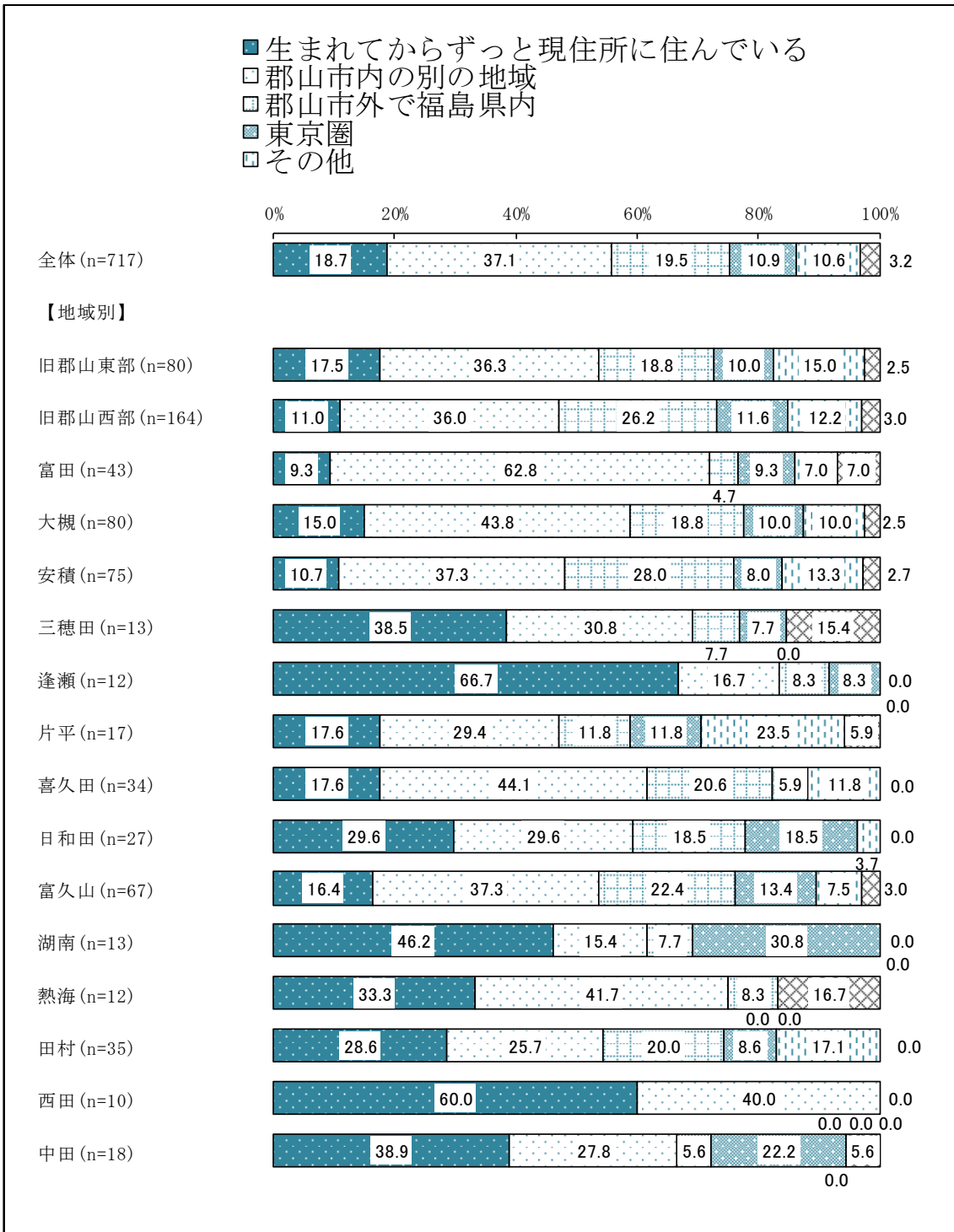


【居住形態別】

- 持ち家
- 公営住宅
- 民間の借家・アパート
- 社宅、公舎など
- 間借、同居、寮など
- 無回答



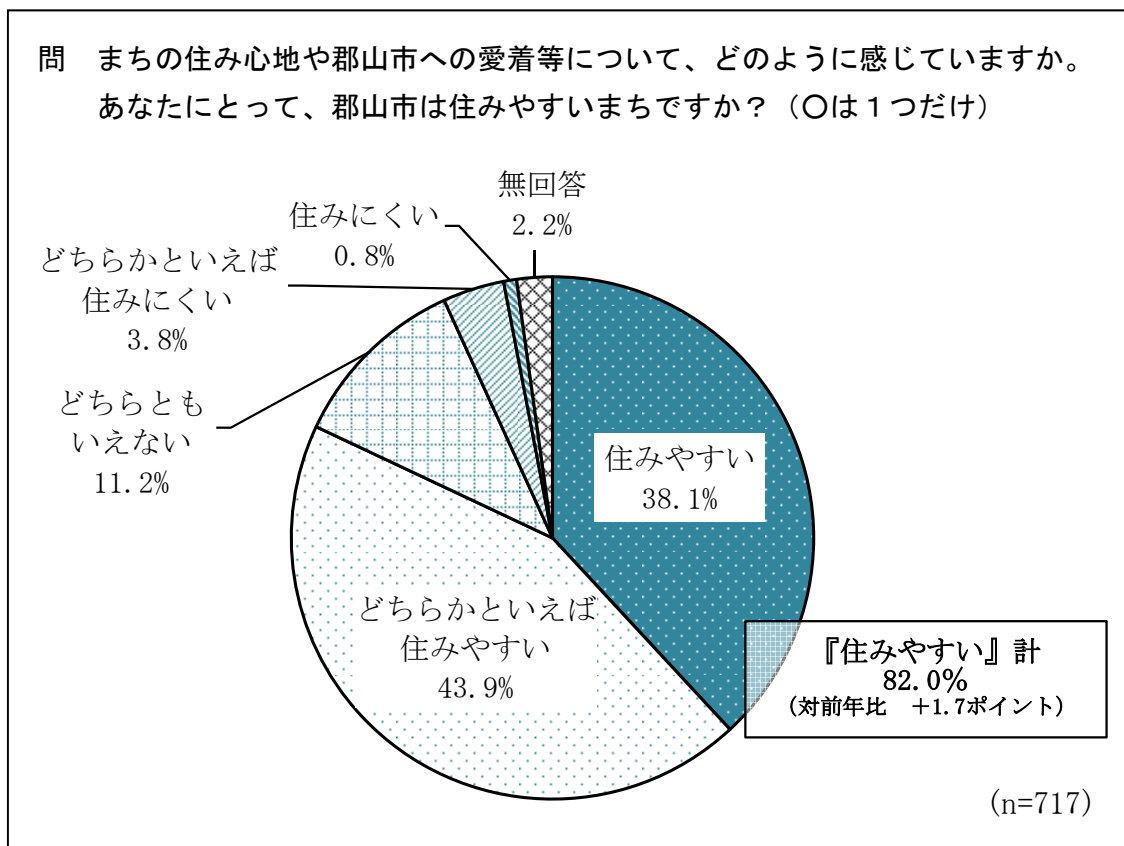
【直前の居住地別】



II 調查結果

1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



8割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

【全体結果】

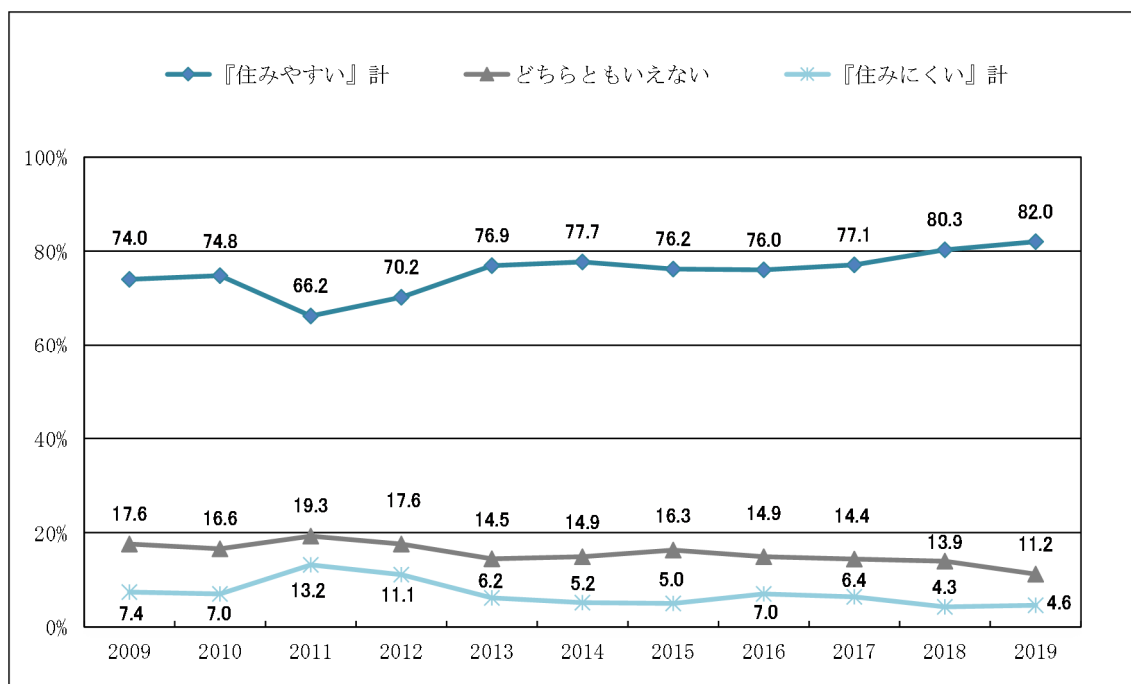
郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては「住みやすい」(38.1%)、「どちらかといえば住みやすい」(43.9%)で両者を合計した『住みやすい』計(82.0%)が約8割を占めています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.8%)と「住みにくい」(0.8%)を合計した『住みにくい』計は5%程度(4.6%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』計のポイントは1.7ポイント上昇しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、今回最も高くなっています。

(図1-1参照)

図 1-1 住みやすさの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

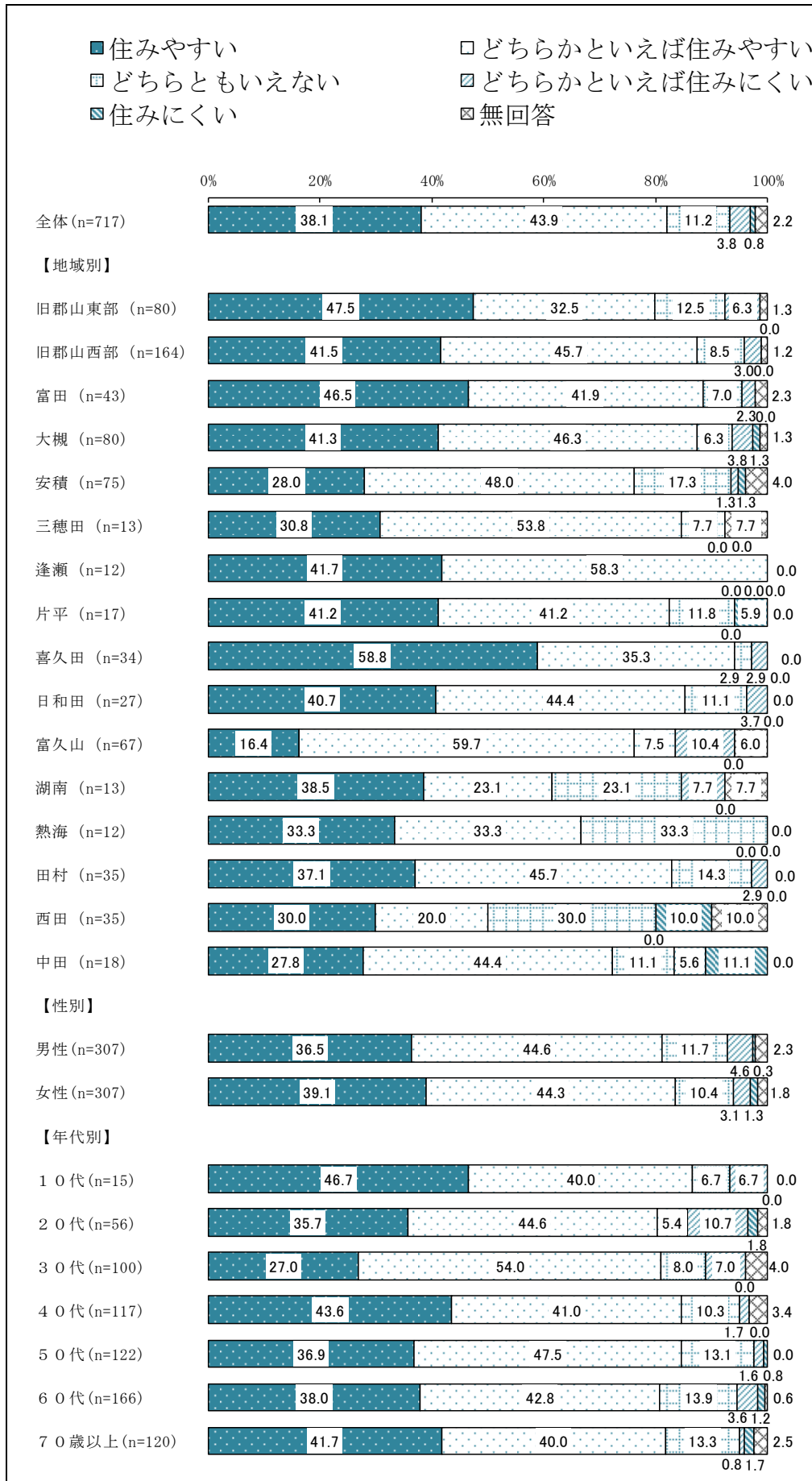
①性別

『住みやすい』計の割合は、女性（83.4%）の方が男性（81.1%）よりもやや高くなっています。

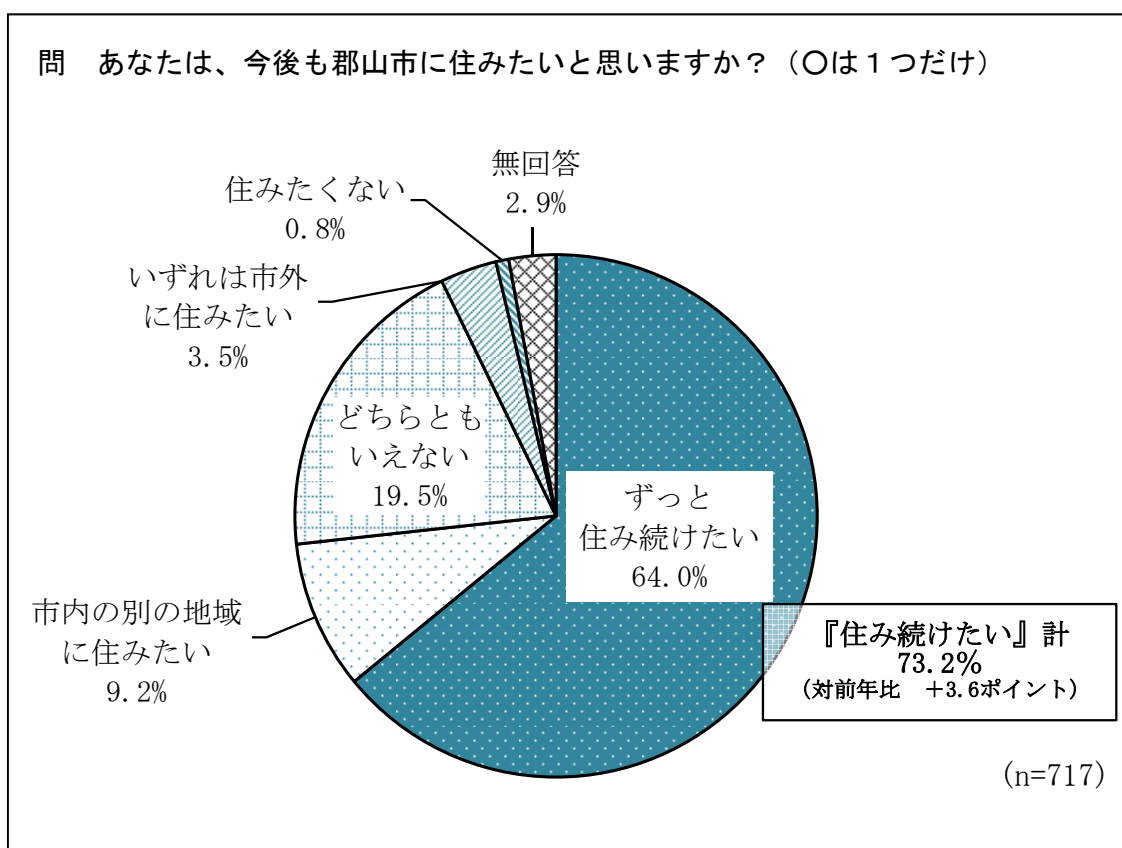
②年代別

『住みやすい』計の割合は、すべての年代で8割を超えています。
 なお、10代については回答数がかなり少ないため、参考として数値のみ掲載いたします。（以降同様）

図 1-2 住みやすさの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向



7割の市民は今後も郡山市内に住みたいとしている

【全体結果】

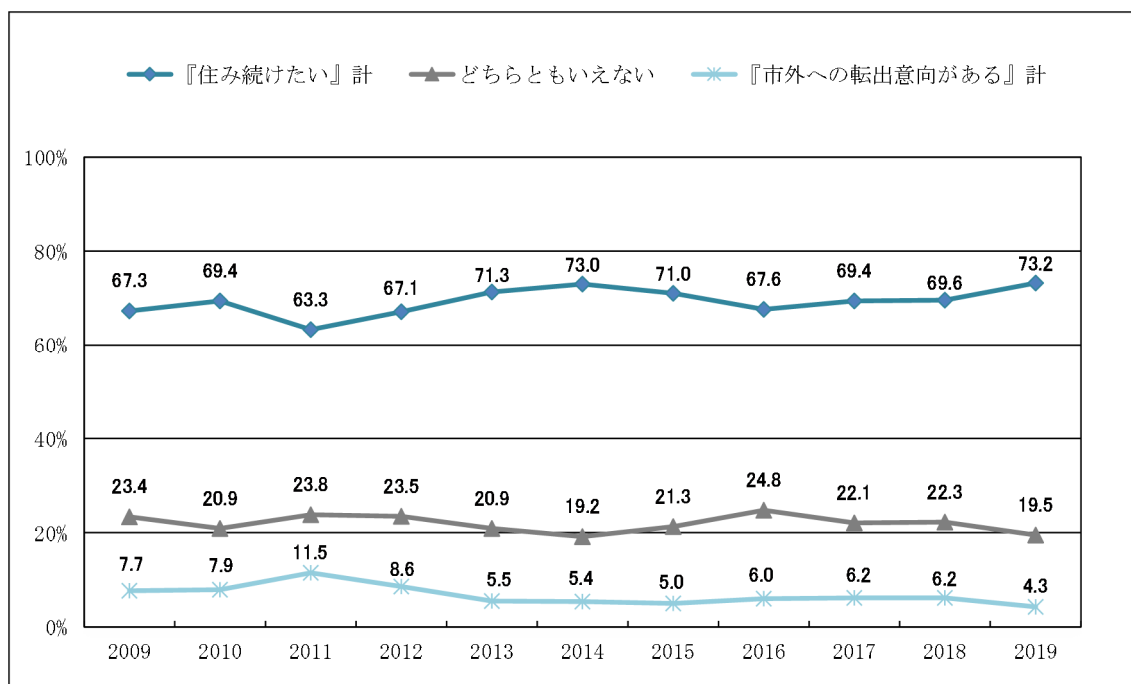
今後も郡山市に住みたいかどうかについては「現在の住所にずっと住みたい」（64.0%）、「市内の別の地域に住みたい」（9.2%）で両者を合計した『住みたい』計（73.2%）が約7割を占めています。

前項の『住みやすい』計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」の割合が『住みやすい』計よりも1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」（3.5%）と「住みたくない」（0.8%）を合計した『市外への転出意向がある』計は5%程度（4.3%）となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住みたい』計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向』計は2011年をピークに減少し、2013年以降、6%前後で推移しています。2019年においては、調査開始以来、最も低くなっています。（図1-3参照）

図 1-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

①性別

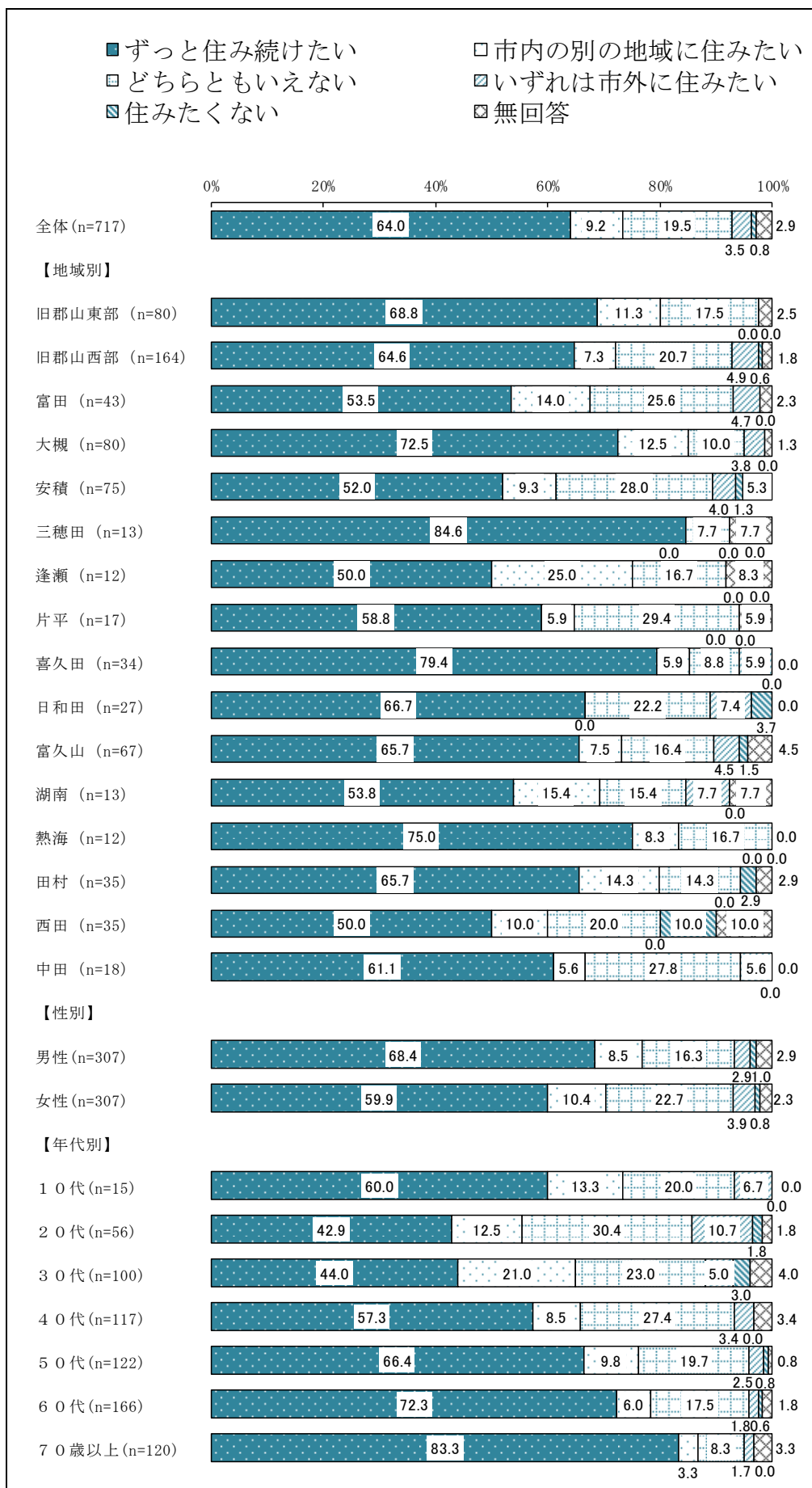
『住み続けたい』計の割合は、男性（76.9%）の方が女性（70.3%）よりも高くなっています。

②年代別

『住み続けたい』計の割合は、70歳以上（86.6%）で最も高く、次に60代（78.3%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、20代は「どちらともいえない」の割合が高く（30.4%）、『住み続けたい』計（55.4%）は低くなっています。次に、30代（65.0%）が低く、これら年代では「いずれは市外に住みたい」「住みたくない」の割合が他の世代に比較して多くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）



2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表2-1 44項目（施策）の満足度ランキング

平均得点69.8点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	78.2	⇒	
2位	(3位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	76.8	➡	
3位	(2位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	76.2	⇒	
4位	(8位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	75.0	➡	
5位	(6位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	74.5	➡	
6位	(5位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	74.4	⇒	
7位	(4位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	73.8	⇒	
8位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.6	⇒	
9位	(11位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	72.7	➡	
10位	(10位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	72.5	⇒	
11位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	72.4	➡	
12位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	72.3	➡	
13位	(21位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	72.0	➡	
14位	(14位)	横断的取組	健康管理	71.9	⇒	
15位	(13位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	71.7	⇒	
16位	(25位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	71.0	➡	
17位	(25位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	70.8	➡	
18位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.6	⇒	
18位	(20位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	70.6	➡	
20位	(25位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	70.5	➡	
21位	(23位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.2	➡	
22位	(19位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.1	⇒	
23位	(14位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	70.0	⇒	
24位	(18位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	69.8	⇒	
25位	(24位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	69.6	⇒	
26位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	69.2	⇩	▼
27位	(32位)	基盤的取組	行政経営	68.2	➡	
27位	(29位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	68.2	➡	
29位	(35位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	67.8	➡	
30位	(30位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	67.5	⇒	
31位	(22位)	横断的取組	風評の払しょく	67.2	⇒	
32位	(33位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	67.1	➡	
33位	(31位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	67.0	⇒	
34位	(38位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	66.6	➡	
35位	(36位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	66.5	➡	
36位	(33位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	66.4	⇒	
37位	(28位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	66.1	⇒	
38位	(41位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	66.0	➡	
39位	-	基盤的取組	SDGs	65.3	-	
40位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	65.1	⇒	
41位	(39位)	II. 交流・観光の未来	観光	64.8	⇒	
42位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	64.6	⇒	
43位	(42位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	62.7	⇒	
44位	(43位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	61.8	⇒	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました。(表2-1参照)

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40) \div \text{無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」159人、「どちらかといえばよい」298人、

「どちらかといえば不満」97人、「不満」59人ですと、

$$\frac{159 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 298 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 97 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 59 \text{ 人} \times 40 \text{ 点}}{613 \text{ 人}}$$

613人

≒78.2

※平均得点=78.2点となります。

※2019年度より「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「音楽のまちづくり」「自然環境」「医療」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「自然環境」「医療」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から11年経過し、市民の認知度が高いこと、また、「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていることなどが、満足度につながっていると考えられます。

「自然環境」については、猪苗代湖を含む「磐梯朝日国立公園」をはじめ、阿武隈山地、奥羽山脈など、緑豊かな自然に恵まれており、郡山市環境基本条例に基づいて生物多様性や森林、農地の保全のほか、公園・緑地の整備など、自然と共生できるまちづくりに取り組んでいることが、高い満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「広聴広報」「スポーツ・文化・芸術」「地域コミュニティ」です。

これら項目に関連する本市の主な取り組みは、次のとおりです。

「広聴広報」では、2019年3月にウェブサイトを更新し、より情報が伝わりやすく利便性を向上するとともに、ソーシャルメディアやアプリを活用するなど、広報の多チャンネル化により、より広く市政情報の発信をすすめています。また、手軽に投稿できるアプリケーションの活用など、市民提案がしやすい環境を整備し、市民参画を推進しています。

「スポーツ」では、充実したスポーツ施設環境や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした市民参加型のイベントの実施、プロスポーツの開催やチームとの連携による様々な事業を展開しています。

「地域コミュニティ」では、郡山市自治会連合会と協働により、町内会加入促進キャンペーンを実施し、町内会への加入促進に取り組むなど、町内会組織強化の支援を行っています。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「誰もが地域で輝く未来」の71.5点、次いで「学び育む子どもたちの未来」の70.5点、「暮らしやすいまちの未来」の69.9点となっています。

表 2-2 7分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	71.5
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	70.5
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.9
4位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	69.6
5位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	68.3
6位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	68.0
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	67.8

過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表 2-3 10年間の満足度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
2012	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制
2011	医療体制	生活衛生体制	ごみ対策
2010	生活環境	医療体制	ごみ対策

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表2-4 44項目（施策）の重要度ランキング

平均割合10.8%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	36.4	⇒	
2位	(2位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	35.4	⇒	
3位	(3位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	33.2	⇒	
4位	(4位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	22.7	⇒	
5位	(13位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	22.0	➡	
6位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	19.9	➡	
7位	(7位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	18.4	⇒	
8位	(12位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	16.7	➡	
9位	(5位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	15.9	➡	
10位	(6位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	15.5	➡	
11位	(11位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	15.3	⇒	
12位	(9位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	14.9	➡	
13位	(8位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	13.8	➡	
14位	(14位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	13.2	⇒	
15位	(15位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	12.3	⇒	
16位	(16位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	12.1	⇒	
17位	(18位)	横断的取組	風評の払しょく	11.9	➡	
18位	(17位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	11.3	➡	
19位	(24位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	9.1	➡	
20位	(23位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	8.9	➡	
21位	(20位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	8.8	➡	
21位	(19位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	8.8	➡	
23位	(29位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	8.1	➡	
23位	(21位)	横断的取組	健康管理	8.1	➡	
25位	(21位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	7.3	➡	
26位	(27位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.0	➡	
27位	(28位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	6.8	➡	
28位	(26位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	6.1	➡	
29位	(32位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	6.0	➡	
30位	(30位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	5.7	⇒	
31位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	5.4	⇒	
32位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	4.9	➡	
32位	(34位)	基盤的取組	行政経営	4.9	➡	
34位	(25位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	4.6	➡	
35位	(36位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.9	➡	
36位	(32位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	3.8	➡	
37位	(35位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	2.9	➡	
38位	(41位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	2.8	➡	
39位	(42位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	2.5	➡	
40位	-	基盤的取組	SDGs	2.2	-	
41位	(39位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.1	➡	
42位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	1.8	➡	
43位	(42位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	1.5	➡	
44位	(40位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	1.3	➡	

平均より高い

平均より低い

— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、市民生活に直結する項目であるとともに、国の「働き方改革」や社会的構造変化に伴う労働力不足への対応など、雇用・就労を取り巻く環境変化などから、昨年度に引き続き重要度が高くなったと考えられます。

「10年間の重要度上位3項目」において、「子育て」は2014年度から、「高齢者福祉」は2013年度から毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「防犯・交通安全・消費者対策」「交通・道路」「観光」です。

「防犯・交通安全・消費者対策」については、全国的に高齢者による重大事故が連日報道され、市民の交通安全意識が高まるとともに、市内では小学生への声掛け事案が相次ぐなど、防犯に対する意識も高まり、重要度が高くなったと考えられます。

「交通・道路」では、今後、ますます深刻化する高齢化社会において、高齢者ドライバーによる事故増加への懸念などから、安全確保に向けた取り組みや公共交通への期待が高まりつつあるものと考えられます。

「観光」においても、国内の訪日外国人旅行者数が過去最高を更新していることや福島空港の台湾定期チャーターの就航など、インバウンド関連のニュースが増えてきていることから、地域経済の活性化に向けて、市民の観光への関心や期待が高まり、重要度が上昇したものと考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」は重要度が比較的高い分野で15.4%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

表 2-5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	17.5
2位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	15.4
3位	Ⅵ. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	11.3
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	10.1
5位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	10.1
6位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	9.1
7位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	2.8

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

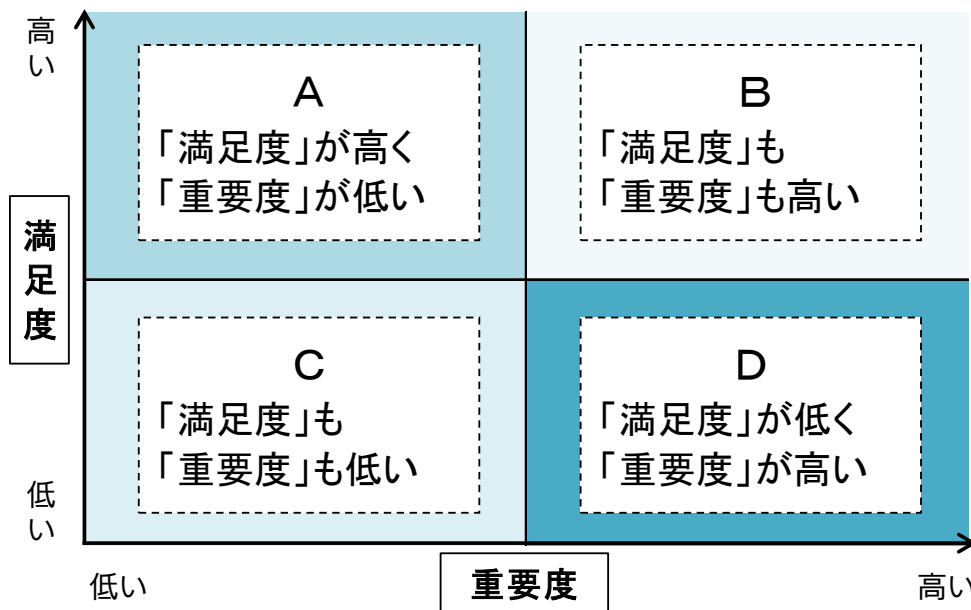
表 2-6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
2012	医療体制	生活環境	保健予防体制
2011	生活環境	医療体制	ごみ対策
2010	医療体制	生活環境	ごみ対策

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては、前出20頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取り組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

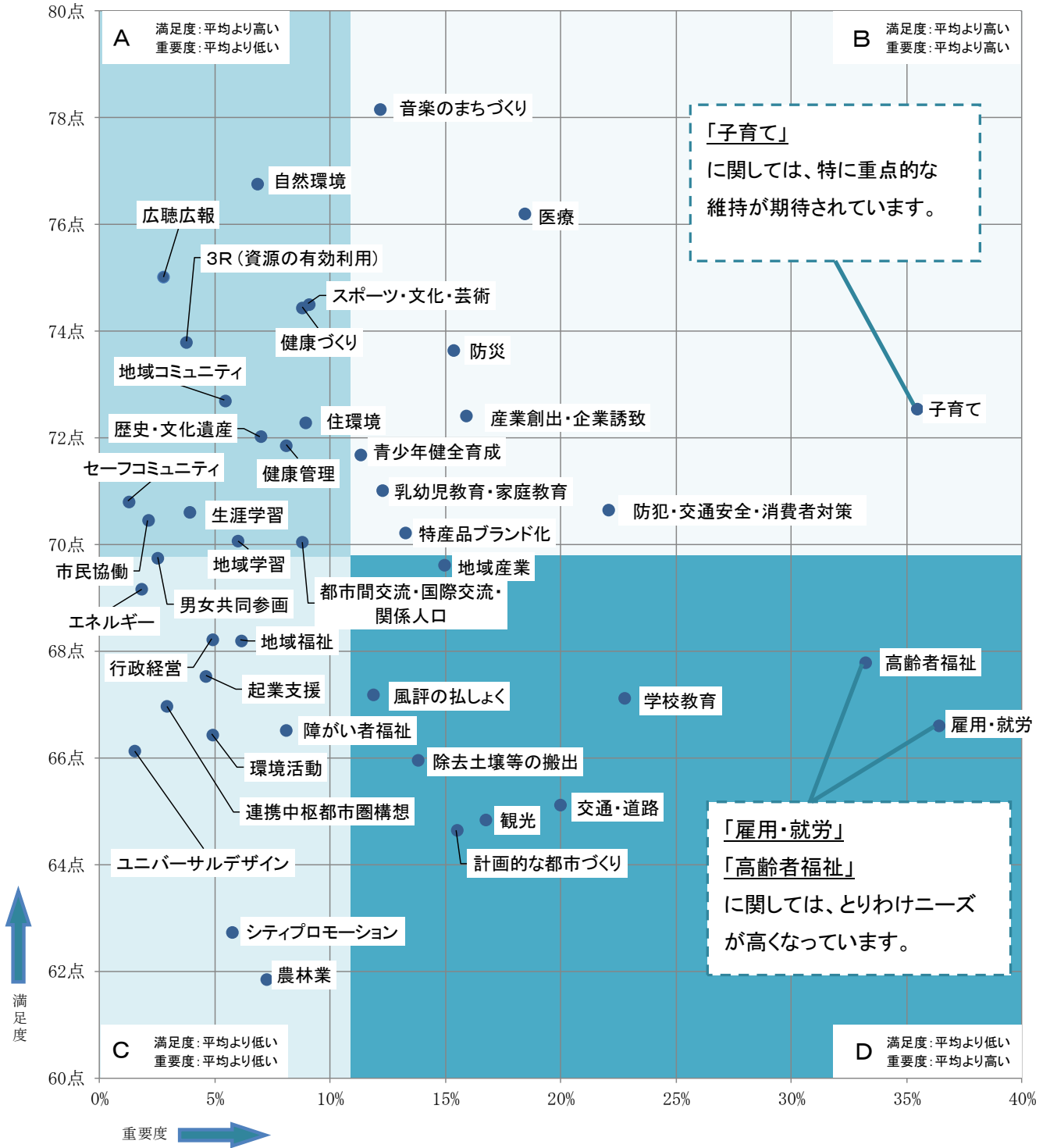
重要度も満足度も低い取り組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取り組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図2-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

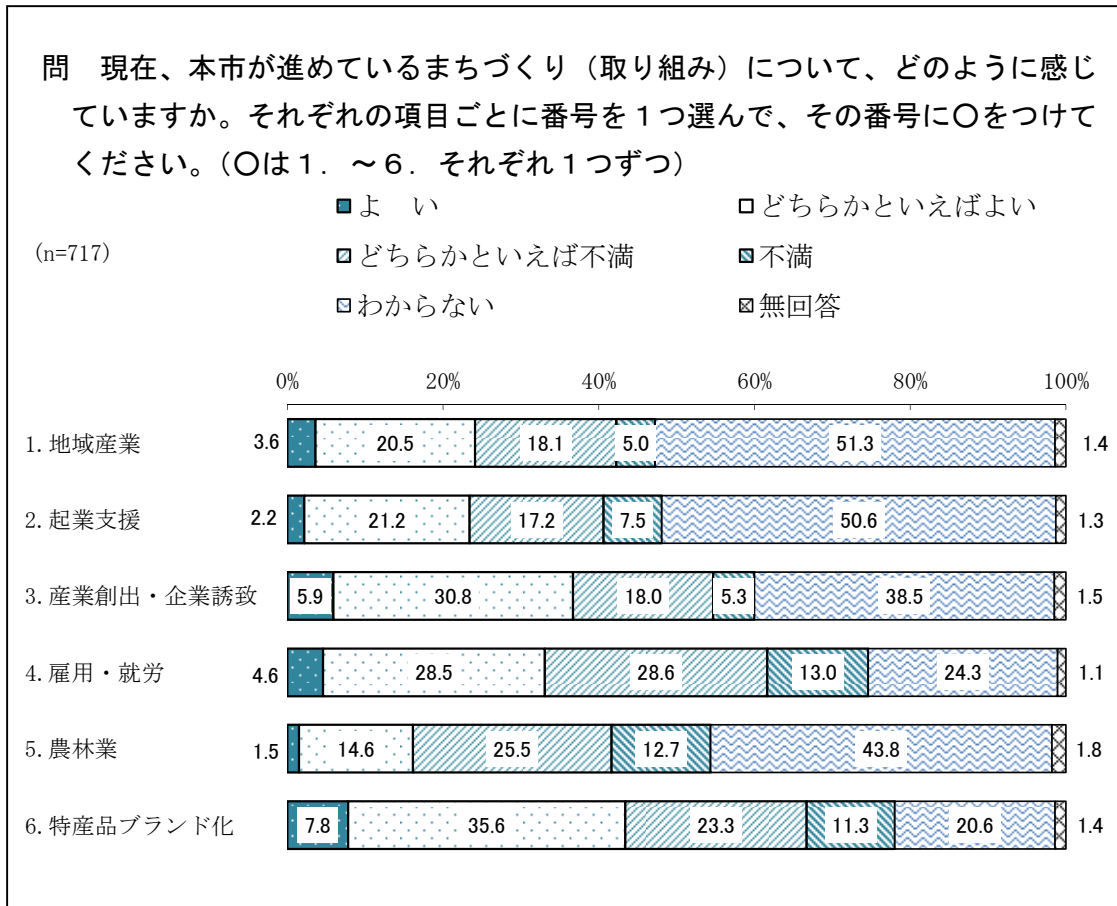


—— 「雇用・就労」「高齢者福祉」に関して
優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「高齢者福祉」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（43.4%）でした。以下、『3. 産業創出・企業誘致』（36.7%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（41.6%）でした。以下、『5. 農林業』（38.2%）、『6. 特産品ブランド化』（34.6%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『1. 地域産業』（51.3%）と『2. 起業支援』（50.6%）で過半数を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

市特産品の「鯉」や郡山産米「あさか舞」、果樹農業の6次産業化による郡山産ワインの誕生など、風評の払しょくに向けた取り組みが評価される一方、市民への浸透や全国的な知名度の獲得を目指した、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。(図 2-2 参照)

平均得点をみると、『3. 産業創出・企業誘致』が 72.4 点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』(61.8 点) でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを下記に掲載しました。(表 2-7 参照)

図 2-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞(全体)

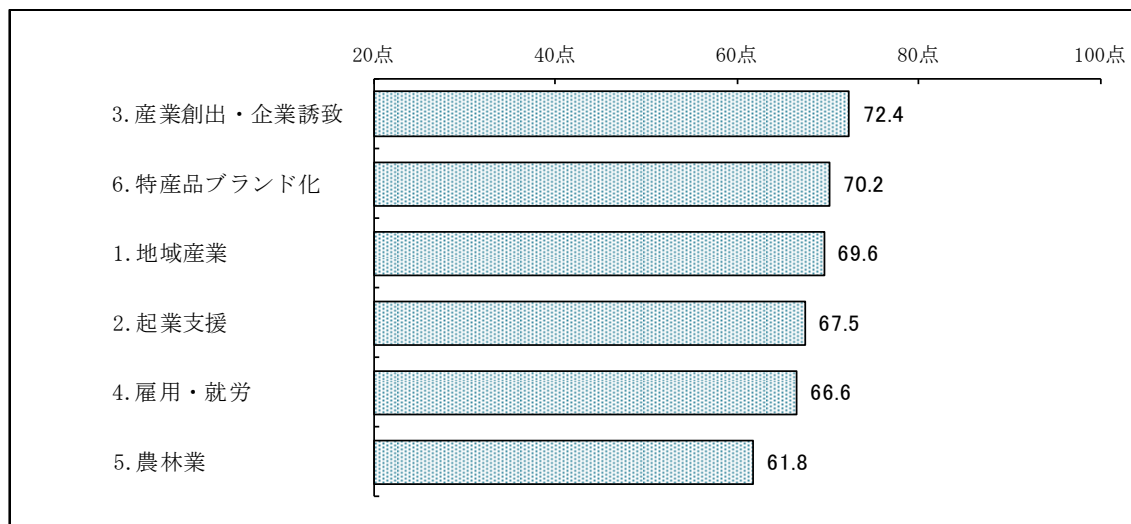
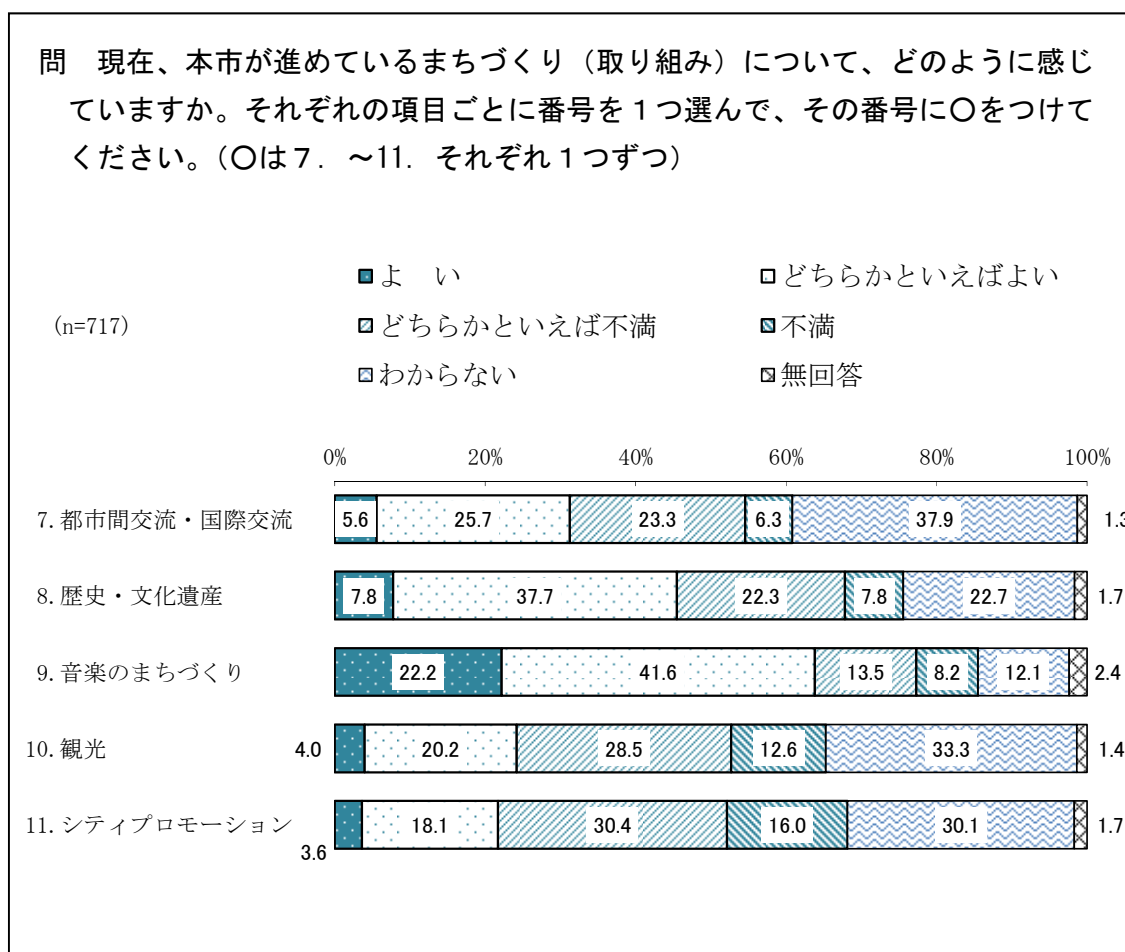


表 2-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男性	女性
1位	産業創出・ 企業誘致 (71.8点)	産業創出・ 企業誘致 (72.8点)
2位	地域産業 (69.6点)	特産品 ブランド化 (71.4点)
3位	特産品 ブランド化 (68.6点)	地域産業 (69.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	特産品 ブランド化 (80.0点)	特産品 ブランド化 (75.9点)	産業創出・ 企業誘致 (71.5点)	産業創出・ 企業誘致 (72.7点)	産業創出・ 企業誘致 (72.9点)	産業創出・ 企業誘致 (71.1点)	地域産業 (74.8点)
2位	雇用・就労 (74.0点)	産業創出・ 企業誘致 (74.2点)	特産品 ブランド化 (70.6点)	特産品 ブランド化 (67.3点)	特産品 ブランド化 (72.2点)	地域産業 (69.6点)	産業創出・ 企業誘致 (73.6点)
3位	産業創出・ 企業誘致 (73.3点)	雇用・就労 (68.5点)	起業支援 (67.8点)	地域産業 (65.2点)	地域産業 (70.5点)	特産品 ブランド化 (68.0点)	起業支援 (70.6点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）
への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは
『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（63.8%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（45.5%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（46.4%）となっています。

性別、年代別においては、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっています。「音楽都市宣言」から11年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催、東京藝術大学との連携(2016～)事業など多様な取組により市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-3参照）

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が78.2点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（62.7点）でした。
 なお、性別、年代別平均得点の上位3つを下記に掲載しました。（表2-8参照）

図2-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

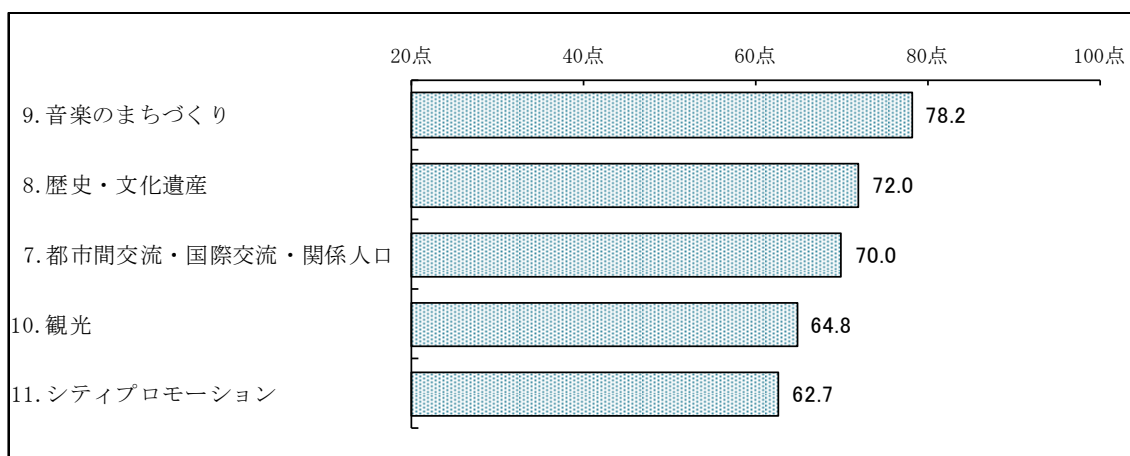
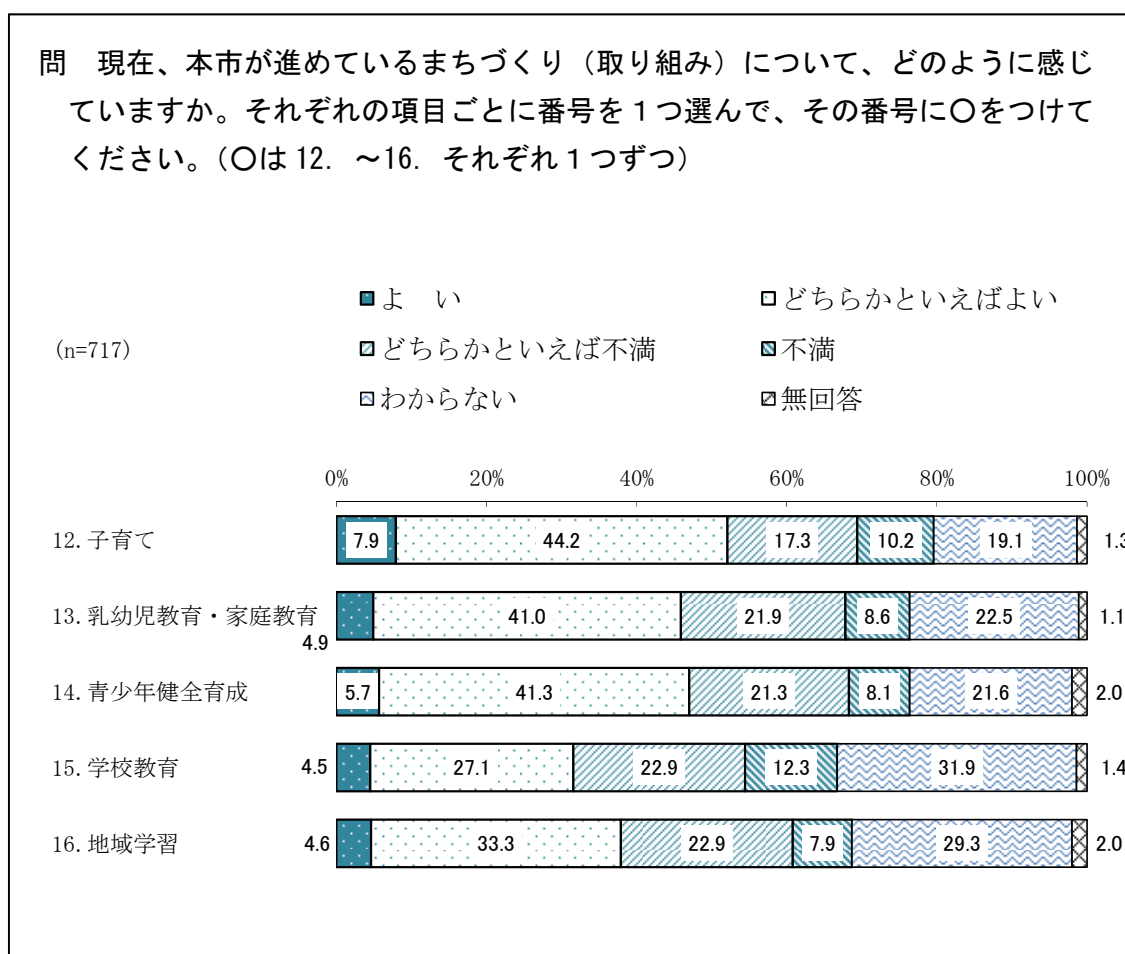


表2-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽の まちづくり (76.5点)	音楽の まちづくり (79.4点)
2位	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (70.9点)	歴史・ 文化遺産 (73.0点)
3位	歴史・ 文化遺産 (70.7点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	音楽の まちづくり (81.7点)	音楽の まちづくり (82.6点)	音楽の まちづくり (77.9点)	音楽の まちづくり (76.6点)	音楽の まちづくり (75.6点)	音楽の まちづくり (76.2点)	音楽の まちづくり (82.7点)
2位	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (80.0点)	歴史・ 文化遺産 (75.5点)	歴史・ 文化遺産 (72.6点)	歴史・ 文化遺産 (71.3点)	歴史・ 文化遺産 (71.6点)	歴史・ 文化遺産 (68.5点)	歴史・ 文化遺産 (75.9点)
3位	歴史・ 文化遺産 (80.0点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (73.3点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (68.0点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.9点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (71.2点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (66.5点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (73.1点)

③学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（52.1%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（47.0%）が続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『15. 学校教育』（35.2%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-4 参照）

平均得点をみると、『12. 子育て』が72.5点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（67.1点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-9 参照）

図2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

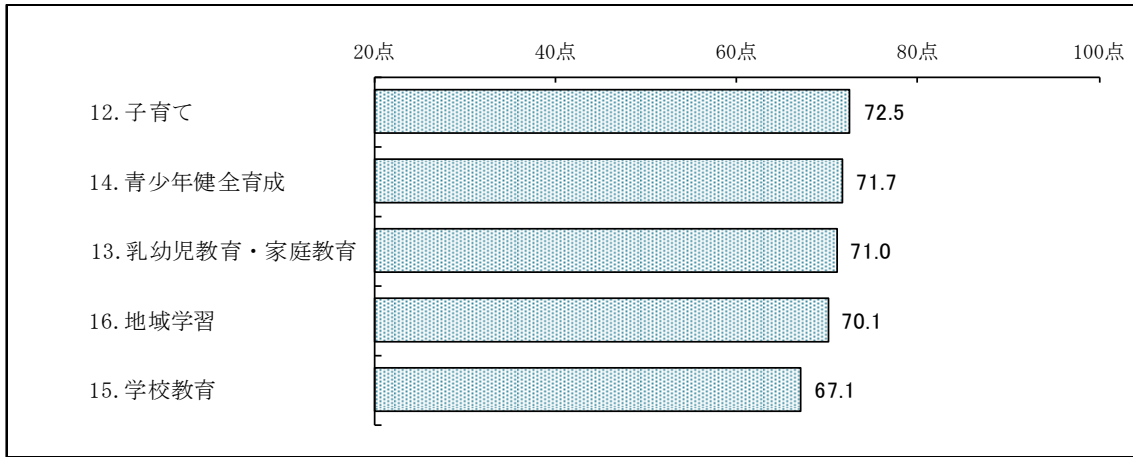


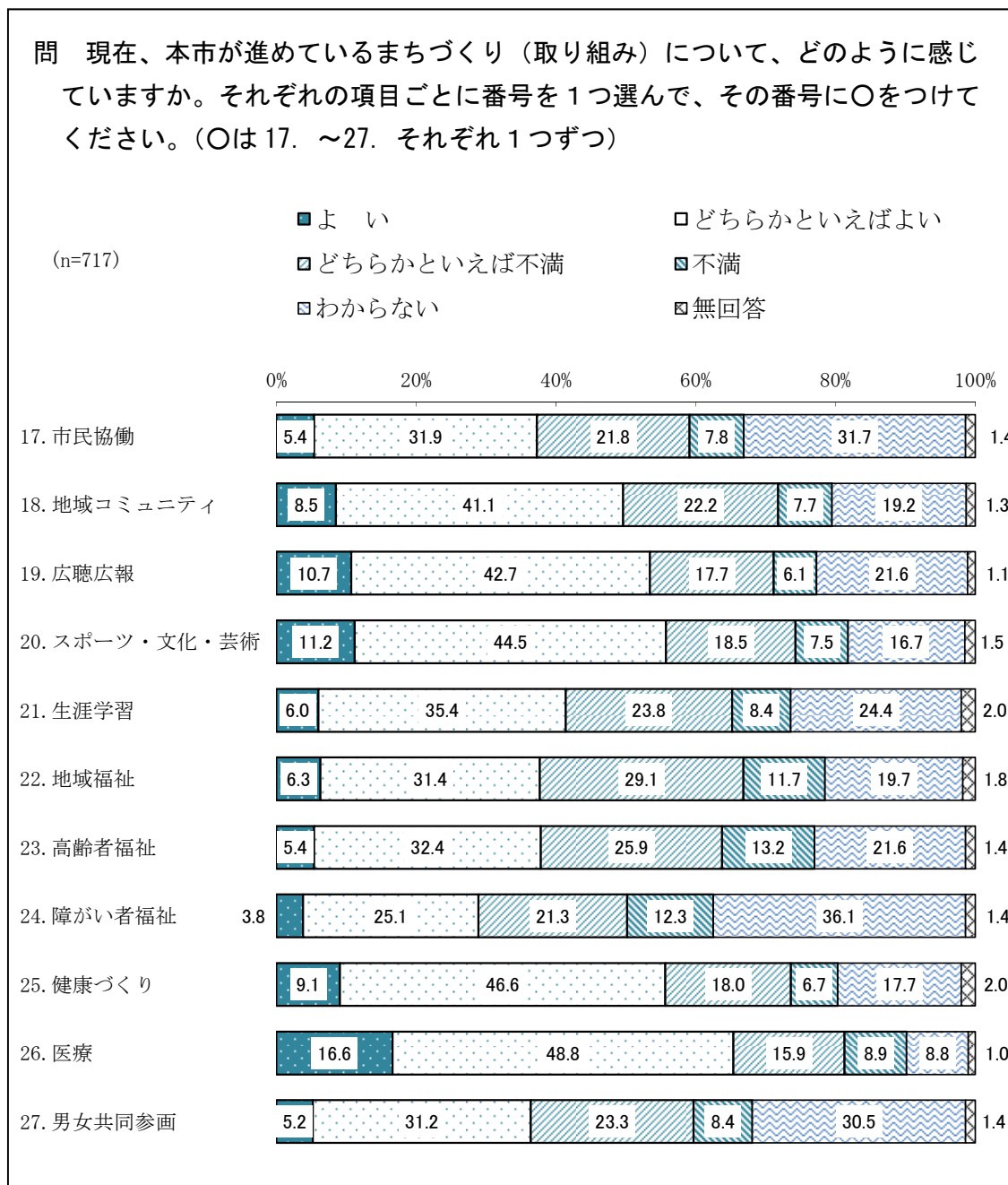
表2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	子育て (72.2点)	子育て (73.0点)
2位	青少年健全育成 (71.2点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.4点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (69.4点)	青少年健全育成 (72.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	地域学習 (82.2点)	地域学習 (74.1点)	地域学習 (72.7点)	子育て (72.7点)	子育て (74.4点)	子育て (70.9点)	子育て (74.9点)
2位	青少年健全育成 (80.0点)	子育て (72.6点)	青少年健全育成 (71.4点)	青少年健全育成 (72.2点)	青少年健全育成 (72.2点)	青少年健全育成 (69.4点)	乳幼児教育・家庭教育 (74.9点)
3位	子育て (77.8点)	青少年健全育成 (71.2点)	子育て (70.1点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (68.8点)	青少年健全育成 (74.0点)

④誰もが地域で輝く未来

(市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（65.4%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（55.7%）、『25. 健康づくり』（55.7%）が同率で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（40.8%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-5 参照）

平均得点をみると、『26. 医療』が 76.2 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（66.5 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-10 参照）中でも『26. 医療』に関しては、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査 平成 28 年 10 月 1 日現在」）、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われま

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

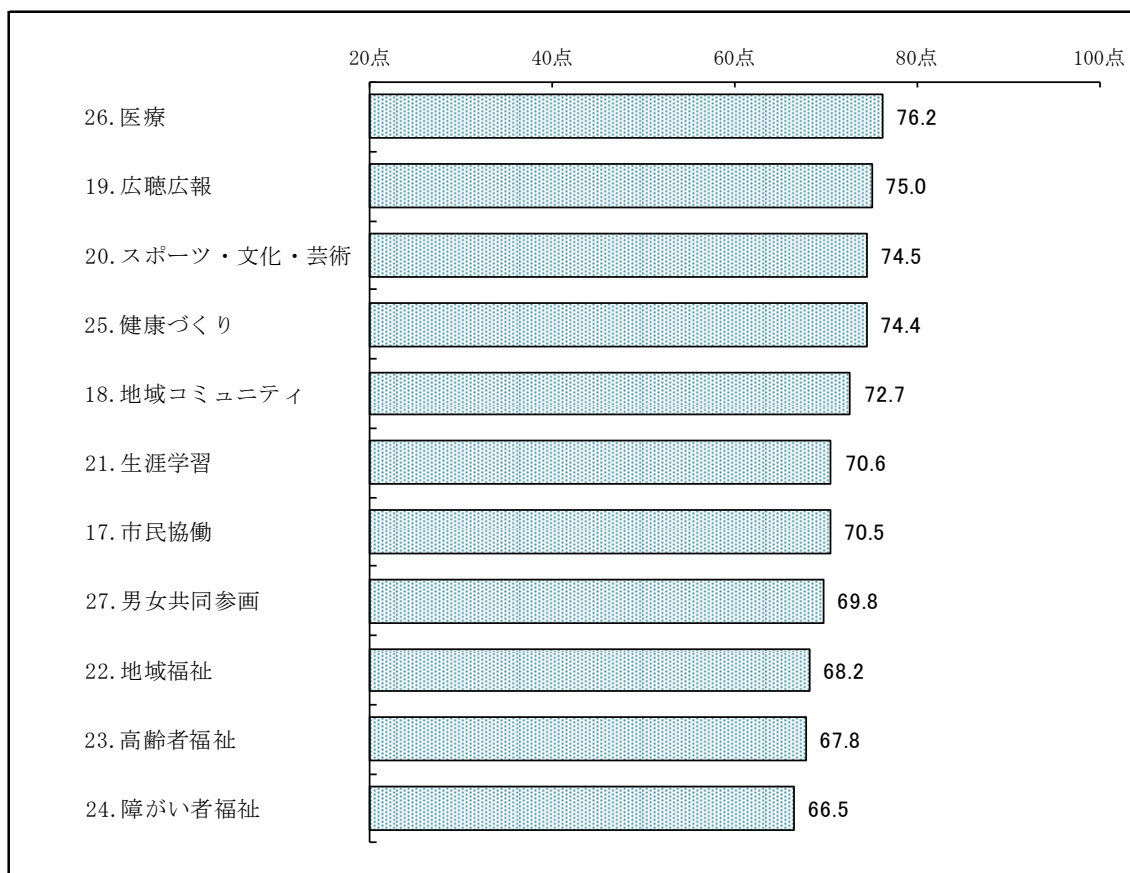


表 2-10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	医療 (77.1点)	広聴広報 (75.8点)
2位	広聴広報 (74.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (75.5点)
3位	健康づくり (73.7点)	医療 (75.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	広聴広報 (83.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (82.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.2点)	広聴広報 (75.5点)	医療 (75.8点)	健康づくり (75.4点)	医療 (79.6点)
2位	地域福祉 (82.2点)	広聴広報 (79.5点)	広聴広報 (75.5点)	医療 (75.4点)	広聴広報 (74.8点)	医療 (74.7点)	健康づくり (78.1点)
3位	地域 コミュニティ (77.8点)	医療 (78.8点)	医療 (75.4点)	健康づくり (73.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.5点)

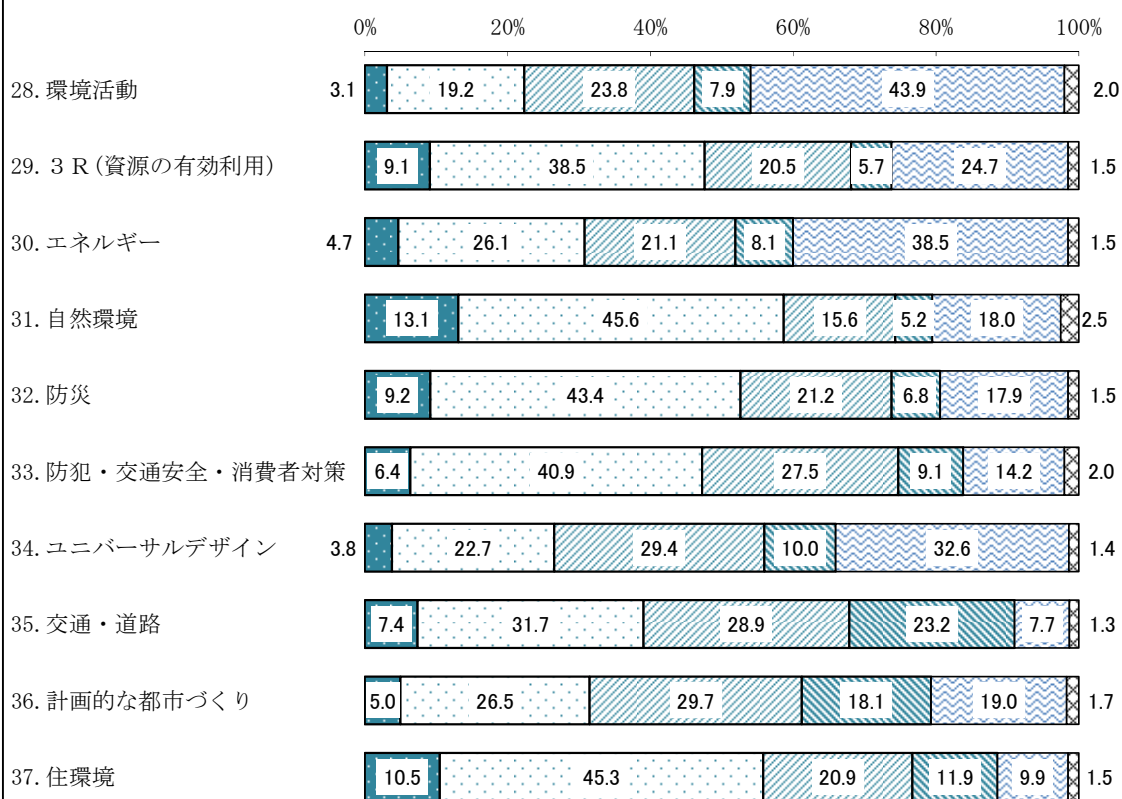
⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり(取り組み)について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。(○は28. ~37. それぞれ1つずつ)

(n=717)

- よい
- どちらかといえばよい
- ▨ どちらかといえば不満
- 不満
- わからない
- ▨ 無回答



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』

——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が高いのは『31. 自然環境』（58.7%）、『37. 住環境』（55.8%）、『32. 防災』（52.6%）がそれぞれ5割台で、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『35. 交通・道路』（52.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-6 参照）

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 76.8 点で最も高くなっています。
一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（64.6 点）でした。

『32. 防災』『33. 防犯・交通安全・消費者対策』に関しては、重要度・満足度が平均得点より高く、今後も防災・減災体制の整備やセーフコミュニティ活動の更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-11 参照）

図 2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

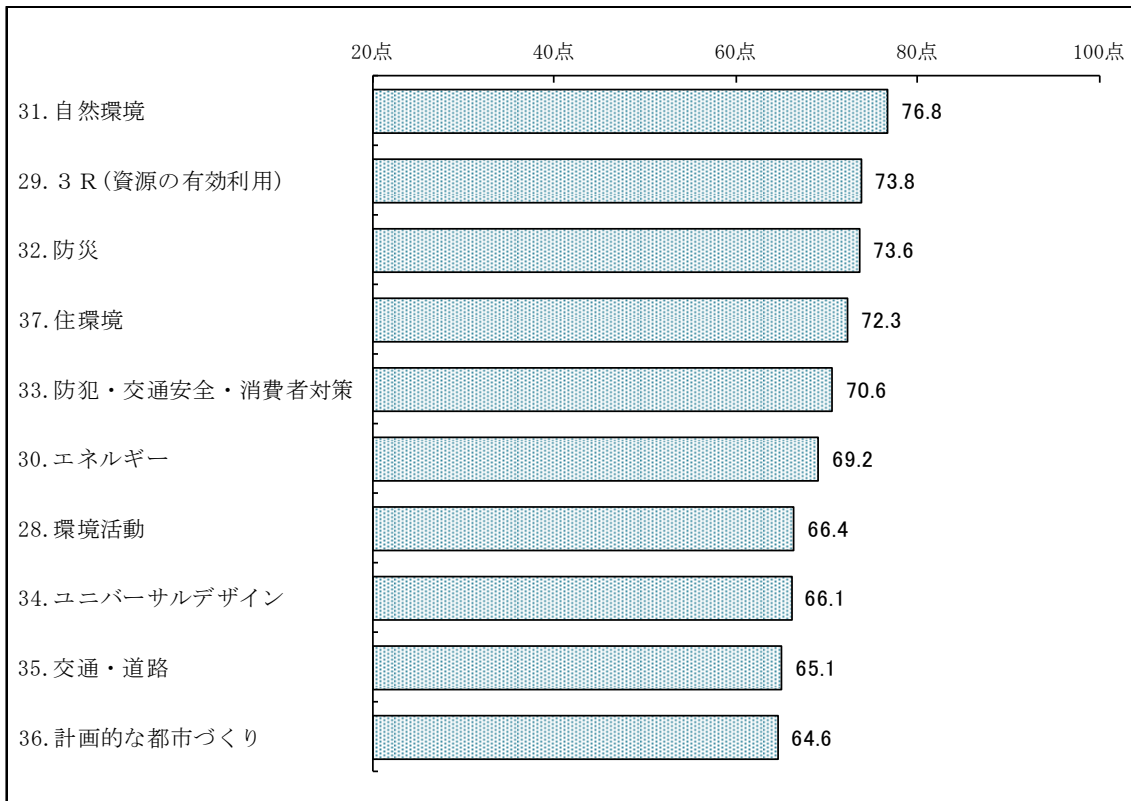
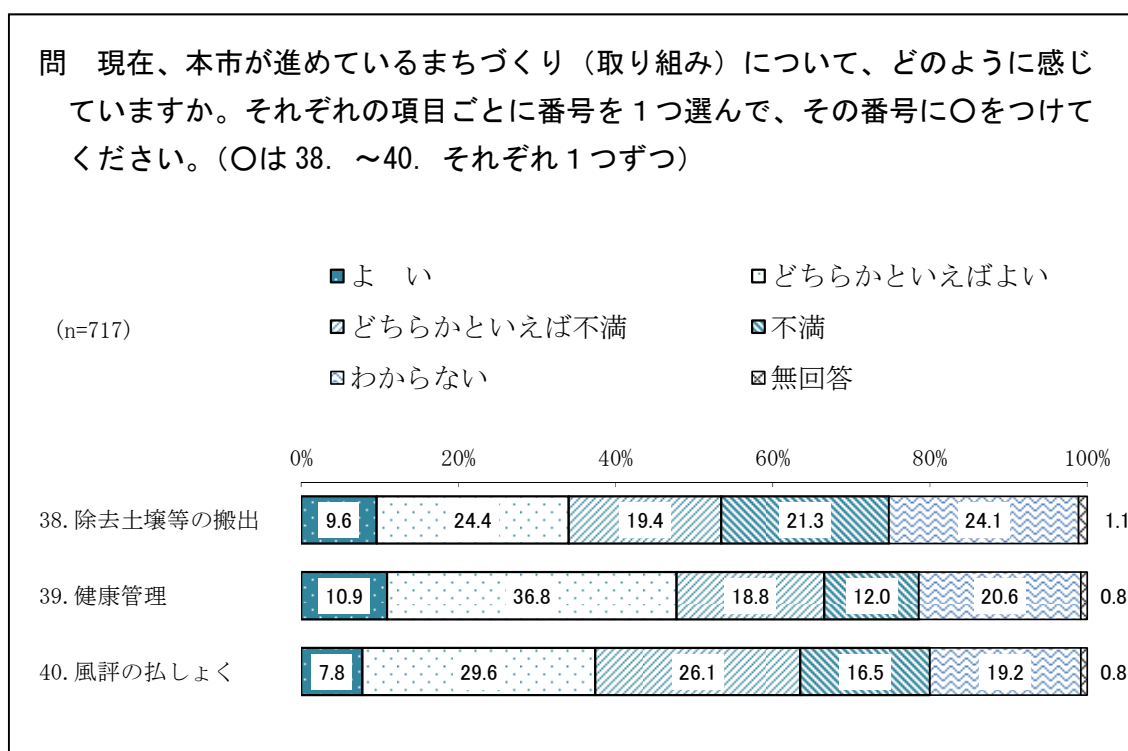


表 2-11 暮らしやすいまちの未来の満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	自然環境 (75.3点)	自然環境 (77.7点)
2位	防災 (72.4点)	3R(資源の有効利用) (74.8点)
3位	3R(資源の有効利用) (72.3点)	防災 (74.5点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	自然環境 (81.8点)	自然環境 (79.5点)	自然環境 (76.5点)	自然環境 (78.0点)	自然環境 (77.6点)	自然環境 (74.0点)	防災 (77.9点)
2位	3R(資源の有効利用) (78.0点)	3R(資源の有効利用) (73.8点)	住環境 (72.1点)	防災 (73.3点)	3R(資源の有効利用) (75.0点)	3R(資源の有効利用) (73.5点)	自然環境 (77.1点)
3位	エネルギー (76.0点)	ユニバーサルデザイン (73.3点)	防災 (71.9点)	3R(資源の有効利用) (72.2点)	防災 (73.7点)	住環境 (72.2点)	3R(資源の有効利用) (75.8点)

⑥横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度



—— 横断的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『健康管理』 ——

【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『39. 健康管理』（47.7%）です。東日本大震災から約8年経過し風評の払しょくに関しては、郡山製品の安全性、販路の拡大及び観光誘客等につながってきていると考えられます。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（42.6%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-7 参照）

平均得点をみると、『39. 健康管理』が 71.9 点で最も高くなっています。内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、心や体のケアに関する体制などが充実し、健康管理が図られていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『38. 除去土壌等の搬出』（66.0 点）でした。除染により発生した除去土壌等の早期搬出が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-12 参照）

図 2-7 横断的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

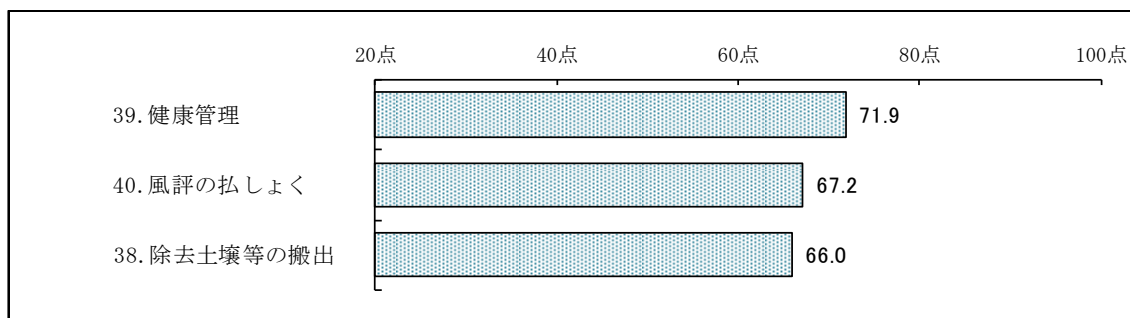


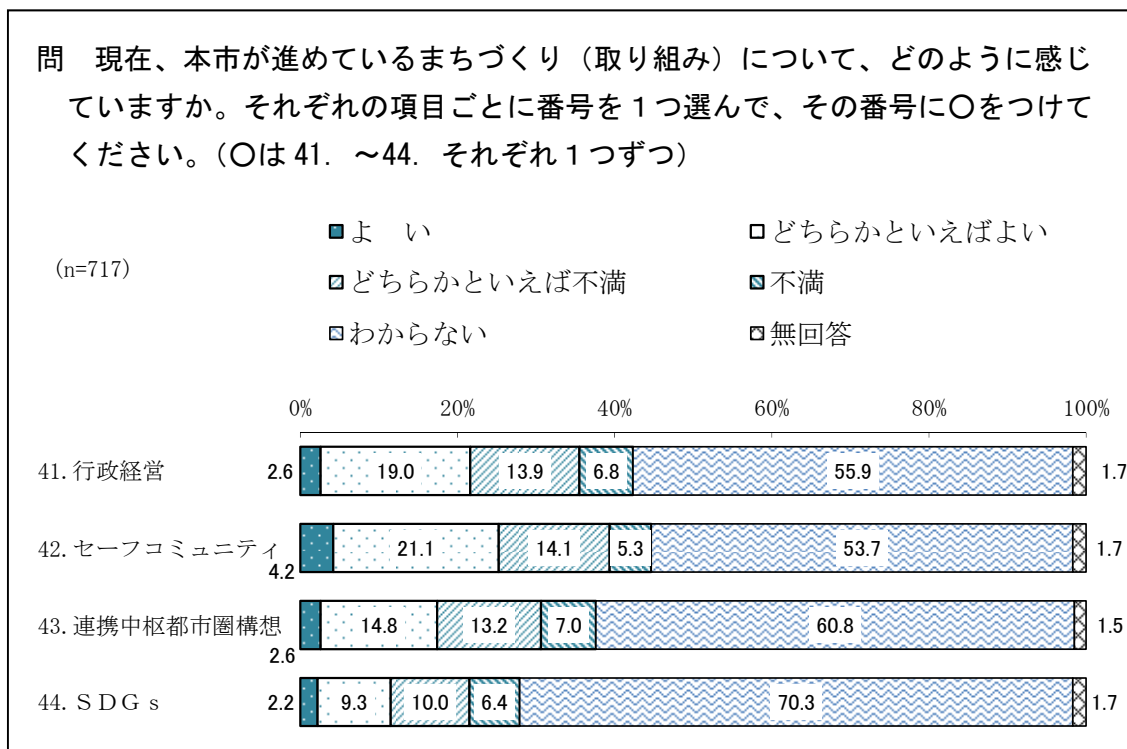
表 2-12 横断的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	健康管理 (70.6点)	健康管理 (73.2点)
2位	除去土壌等 の搬出 (66.3点)	風評の払しょく (68.3点)
3位	風評の払しょく (65.7点)	除去土壌等 の搬出 (65.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	健康管理 (80.0点)	健康管理 (79.0点)	健康管理 (73.3点)	健康管理 (70.9点)	健康管理 (74.6点)	健康管理 (69.7点)	健康管理 (69.5点)
2位	風評の払しょく (73.3点)	風評の払しょく (77.4点)	風評の払しょく (72.6点)	風評の払しょく (65.7点)	除去土壌等 の搬出 (67.0点)	風評の払しょく (64.2点)	風評の払しょく (65.2点)
3位	除去土壌等 の搬出 (70.0点)	除去土壌等 の搬出 (73.5点)	除去土壌等 の搬出 (70.3点)	除去土壌等 の搬出 (65.2点)	風評の払しょく (65.9点)	除去土壌等 の搬出 (62.9点)	除去土壌等 の搬出 (63.8点)

⑦基盤的取組

(行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『セーフコミュニティ』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『42. セーフコミュニティ』（25.3%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのも『41. 行政経営』（20.7%）となっています。

また、すべての項目において「わからない」の割合が半数を越えています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

セーフコミュニティ、連携中枢都市圏構想、SDGsについては、本市が近年取り組んでいる施策ですが、実施時期が早いほど「わからない」の割合が少なくなっています。そのため、具体的な事業推進により市民の認知度を高めることが重要と思われます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-8 参照）

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が70.8点で最も高くなっています。一方で、最も低かったのは『44. SDGs』（65.3点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-13 参照）

図 2-8 基盤的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

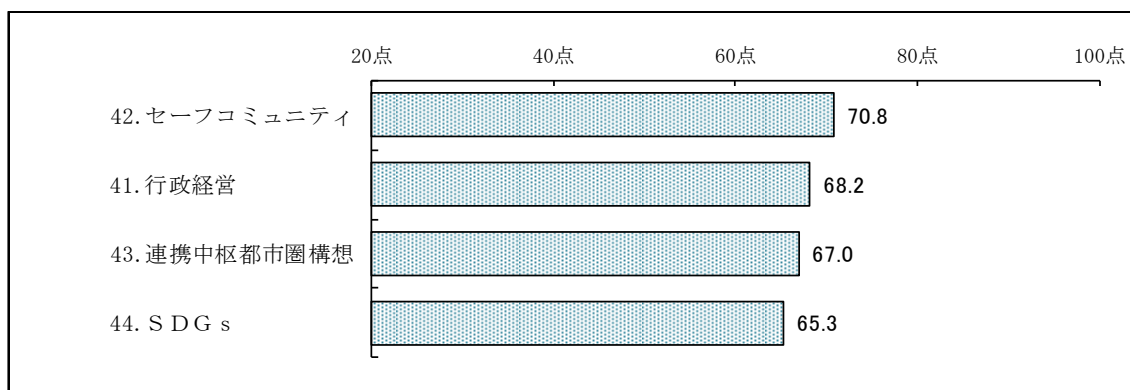


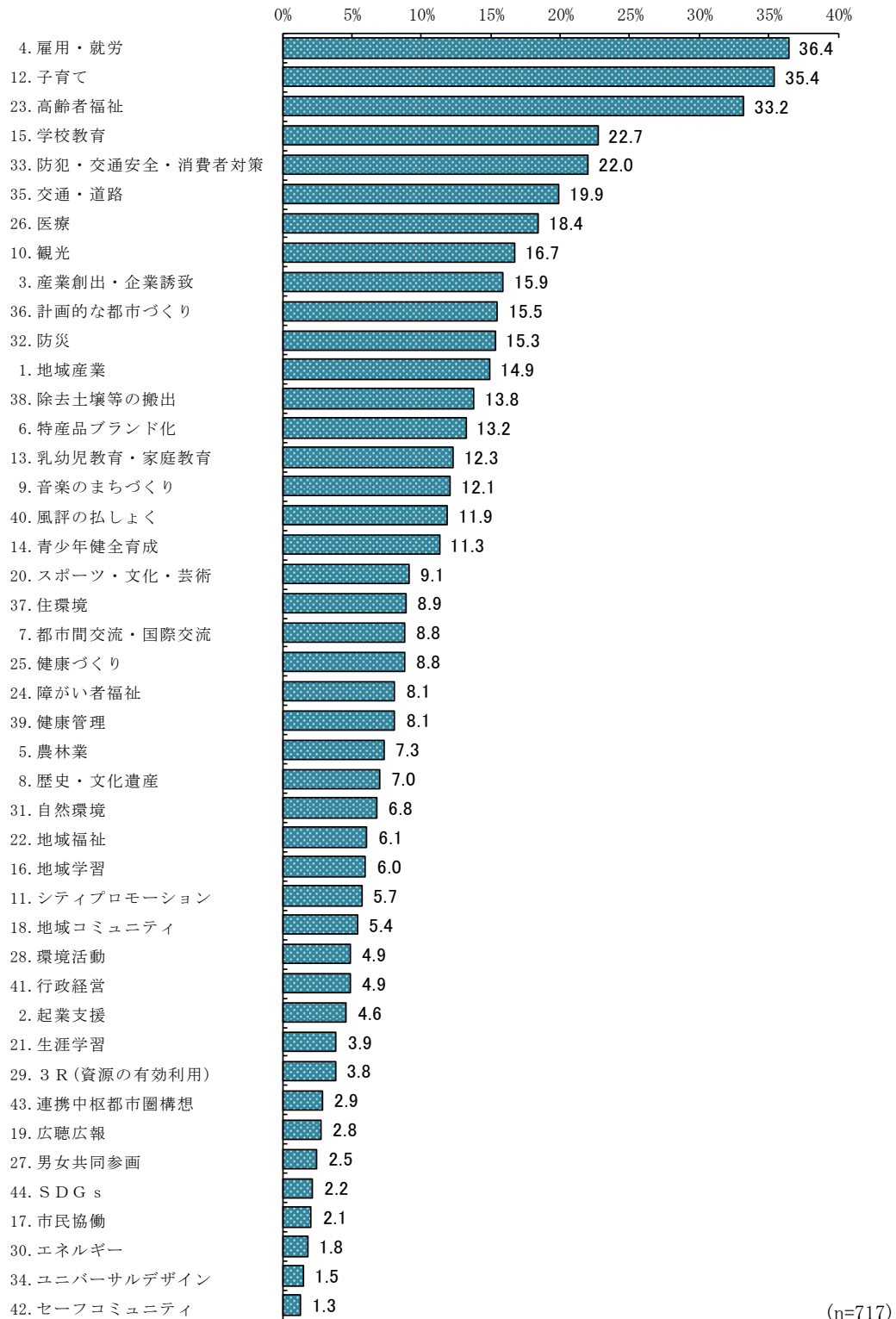
表 2-13 基盤的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	セーフ コミュニティ (69.4点)	セーフ コミュニティ (71.8点)
2位	連携中枢 都市圏構想 (67.9点)	行政経営 (68.2点)
3位	行政経営 (67.7点)	連携中枢 都市圏構想 (65.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	SDGs (80.0点)	セーフ コミュニティ (74.7点)	セーフ コミュニティ (71.2点)	セーフ コミュニティ (73.6点)	セーフ コミュニティ (70.5点)	セーフ コミュニティ (67.3点)	連携中枢 都市圏構想 (70.5点)
2位	セーフ コミュニティ (76.0点)	SDGs (71.6点)	SDGs (67.4点)	行政経営 (70.4点)	行政経営 (70.2点)	行政経営 (65.2点)	セーフ コミュニティ (69.4点)
3位	連携中枢 都市圏構想 (72.0点)	連携中枢 都市圏構想 (68.7点)	連携中枢 都市圏構想 (67.2点)	連携中枢 都市圏構想 (67.8点)	連携中枢 都市圏構想 (66.2点)	連携中枢 都市圏構想 (63.0点)	行政経営 (69.3点)

(5) 分野別属性別重要度結果

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を5つ選び、その番号に○印をつけてください。（○は5つ）



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

「雇用・就労」(36.4%)の割合が最も高くなっています。以下、「子育て」(35.4%)、「高齢者福祉」(33.2%)、「学校教育」(22.7%)、「33. 防犯・交通安全・消費者対策」(22.0%)、「35. 交通・道路」(19.9%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを下記に載しました。(表2-14 参照)

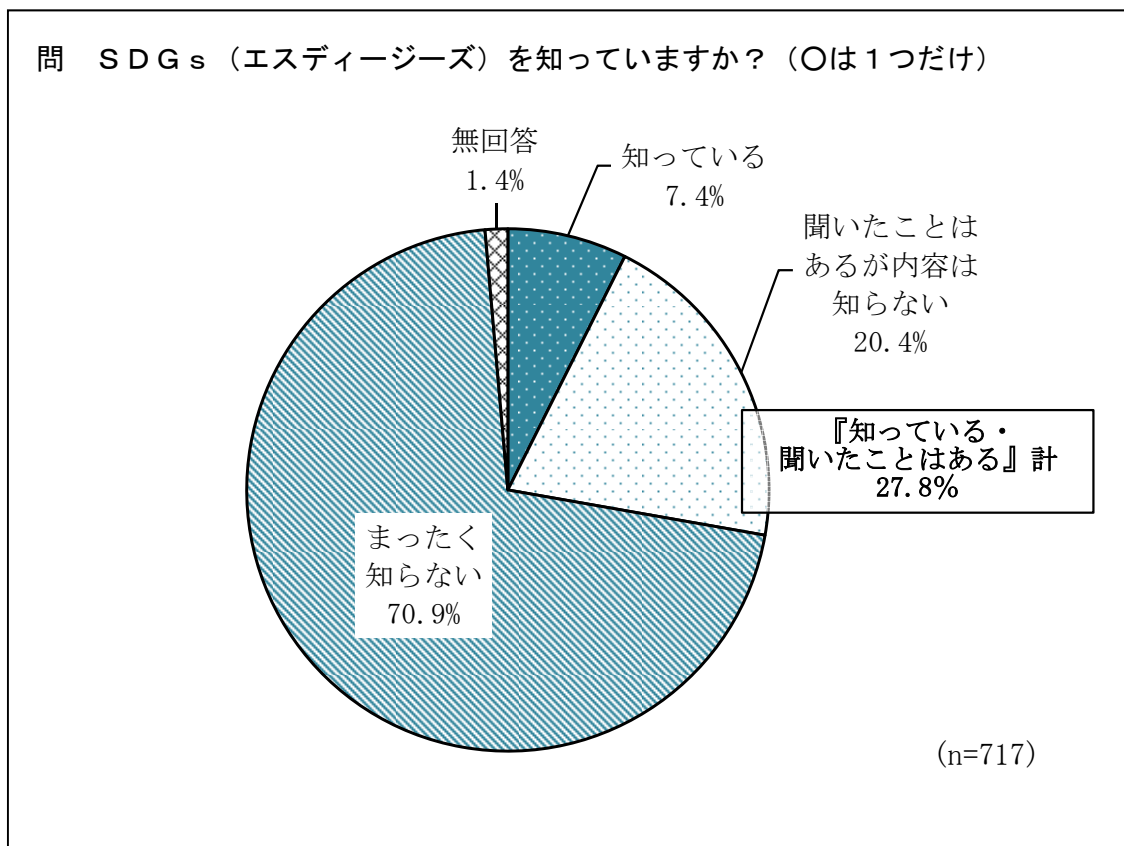
表2-14 これからの取組について<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	子育て (36.8%)	雇用・就労 (38.3%)
2位	雇用・就労 (34.9%)	高齢者福祉 (36.5%)
3位	高齢者福祉 (28.7%)	子育て (35.4%)
4位	学校教育 (25.7%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (22.1%)
5位	交通・道路 (23.5%)	医療 (21.6%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	子育て (46.7%)	子育て (57.1%)	子育て (53.0%)	学校教育 (39.3%)	雇用・就労 (42.6%)	高齢者福祉 (38.0%)	高齢者福祉 (41.7%)
2位	高齢者福祉 (26.7%)	雇用・就労 (42.9%)	雇用・就労 (45.0%)	子育て (37.6%)	高齢者福祉 (37.7%)	雇用・就労 (36.7%)	雇用・就労 (25.8%)
3位	計画的な 都市づくり (26.7%)	防災 (26.8%)	学校教育 (30.0%)	雇用・就労 (35.0%)	子育て (31.1%)	子育て (28.3%)	子育て (24.2%)
4位	地域産業 雇用・就労 特産品ブランド化 音楽のまちづくり 乳幼児教育・家庭教育 学校教育 自然環境 防犯・交通安全・消費者対策 交通・道路 (20.0%)	医療 (23.2%) 交通・道路 (23.2%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (25.0%) 高齢者福祉 (23.0%)	高齢者福祉 (27.4%) 交通・道路 (25.6%)	交通・道路 (27.0%) 医療 (25.4%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (20.5%) 学校教育 (19.9%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (23.3%) 除去土壌等 の搬出 (18.3%)
5位							

3. SDGs（エスディージーズ）の関心度について

(1) SDGs（エスディージーズ）の認知状況



—— SDGs（エスディージーズ）を知っている又は聞いたことがある市民は3割 ——

【全体結果】

SDGs（エスディージーズ）の認知状況については「知っている」（7.4%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（20.4%）で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計（27.8%）は3割弱となっています。

一方、「まったく知らない」（70.9%）は約7割を占めています。

【属性別結果】（図 3-1 参照）

①性別

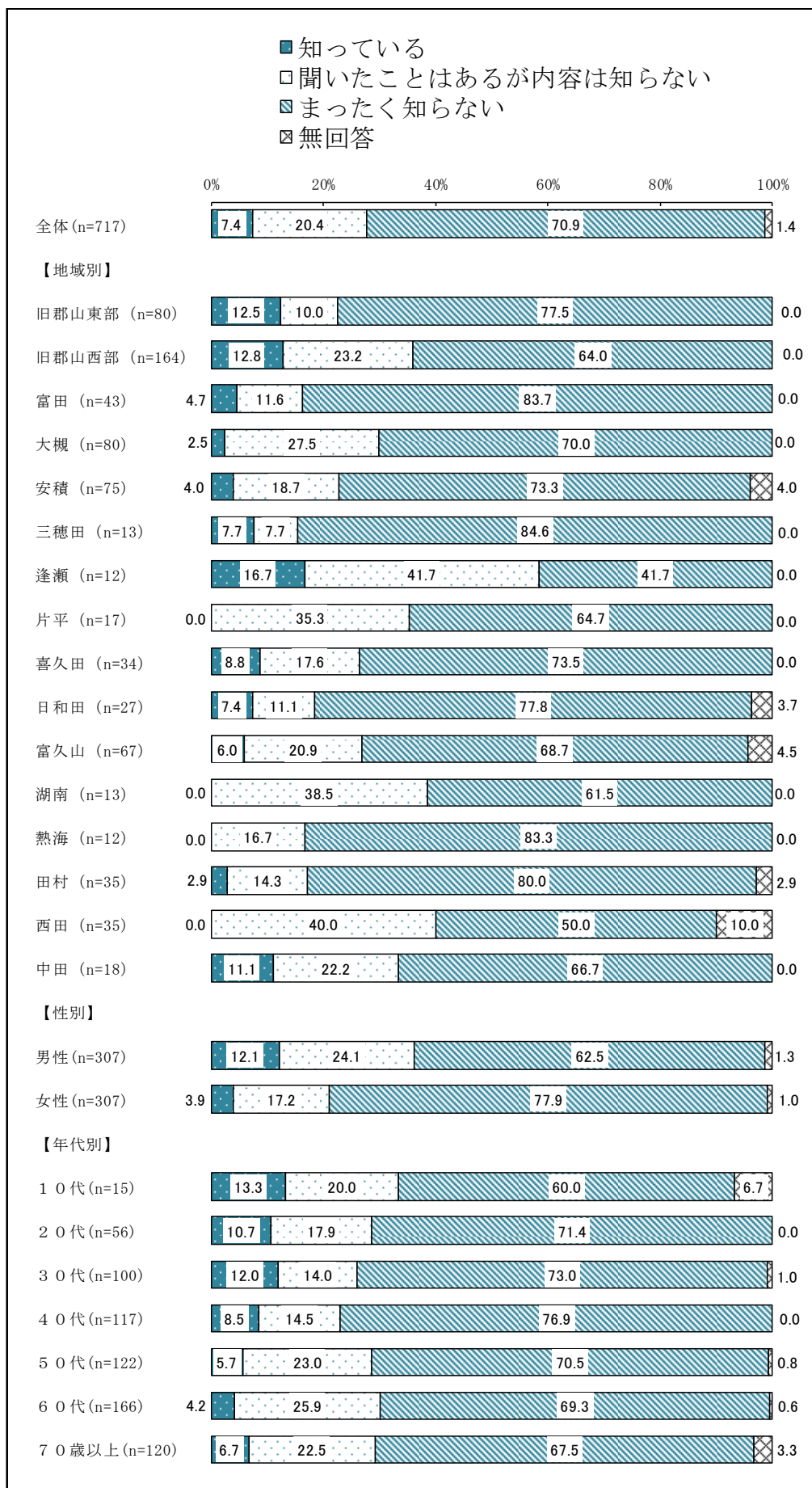
『知っている・聞いたことはある』計の割合は、男性（36.2%）の方が女性（21.1%）よりも高くなっています。

②年代別

『知っている・聞いたことはある』計の割合は、60代（30.1%）で最も高くなっています。

一方で、最も低いのは40代（23.0%）でした。

図3-1 SDGs（エスディーズ）の認知状況（地域別／性別／年代別）

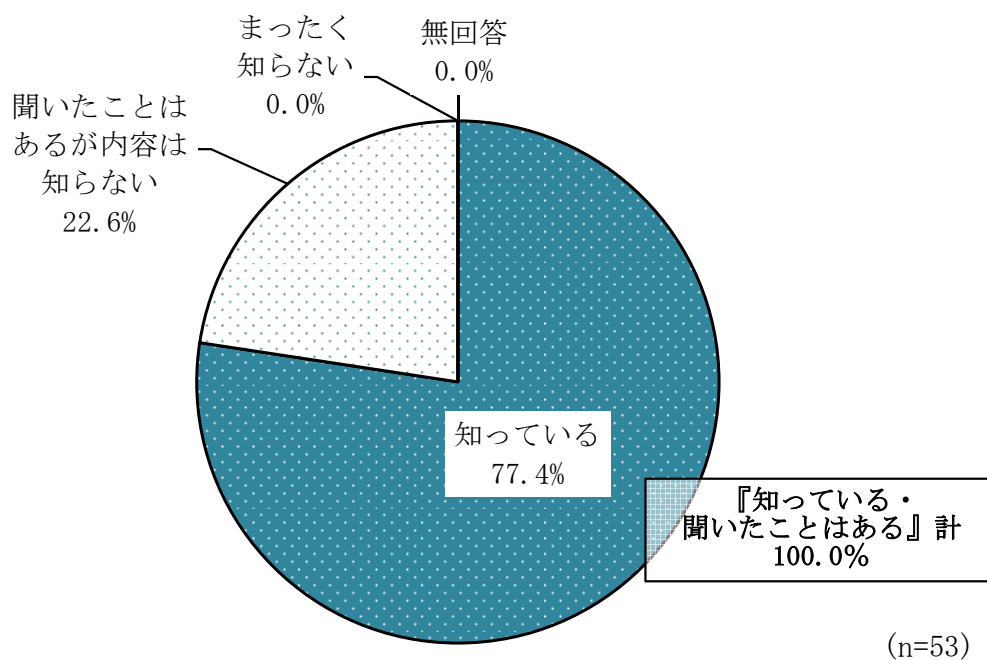


(2) 国連のSDGs（エスディージーズ）の取り組みの認知状況

問 (1) で「1. 知っている」を選択した方にお伺いします。

2015年に国連で採択された国連のSDGsの取り組みを知っていますか？

(○は1つだけ)



—— 国連のSDGs（エスディージーズ）の取り組みを知っている
又は聞いたことがある市民は10割 ——

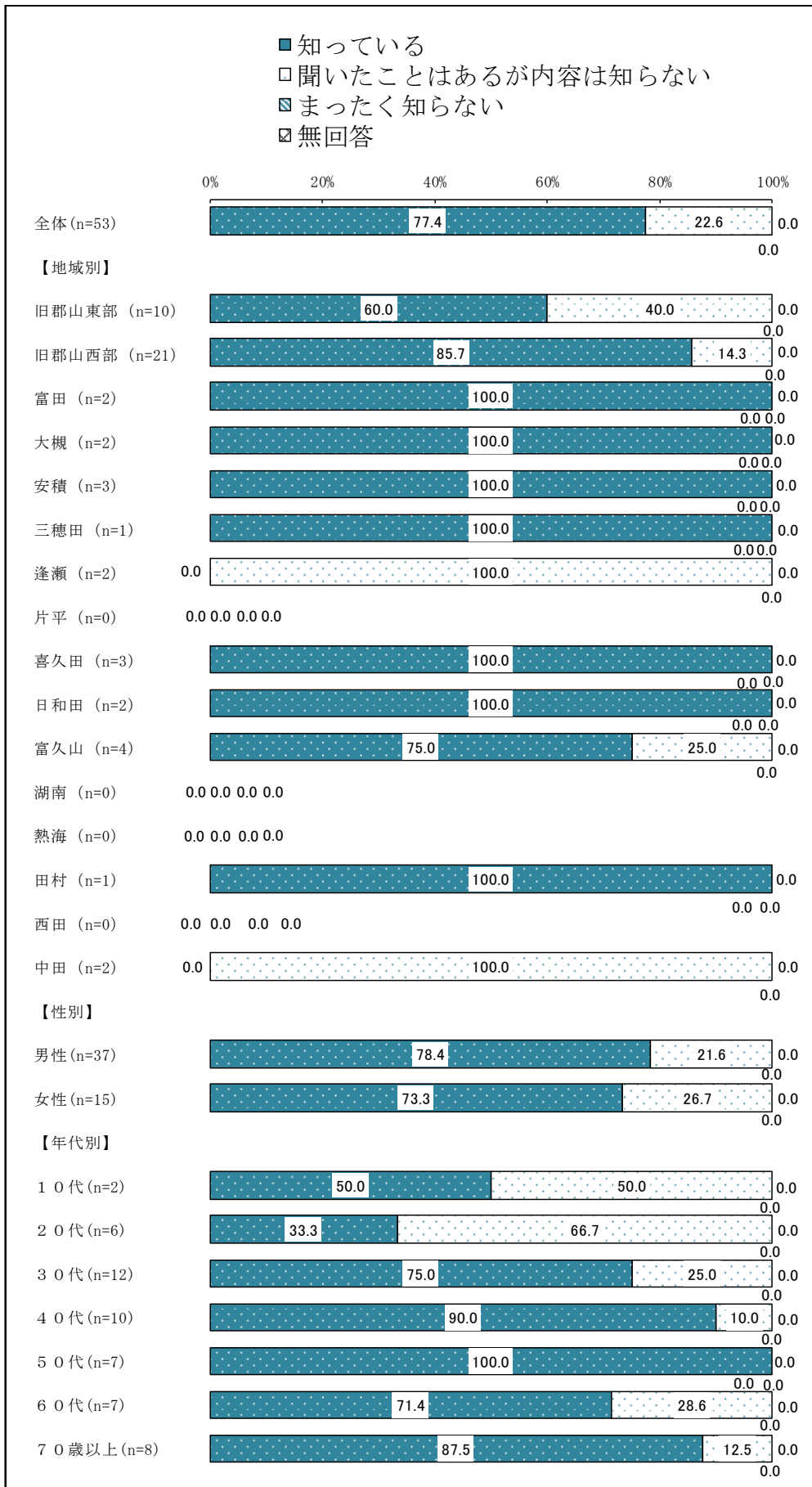
【全体結果】

国連のSDGs（エスディージーズ）の認知状況については「知っている」(77.4%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(22.6%)で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計(100.0%)は10割となっています。

【属性別結果】(図3-2参照)

※該当者数が少ないため、属性別結果については図のみの掲載に留めました。

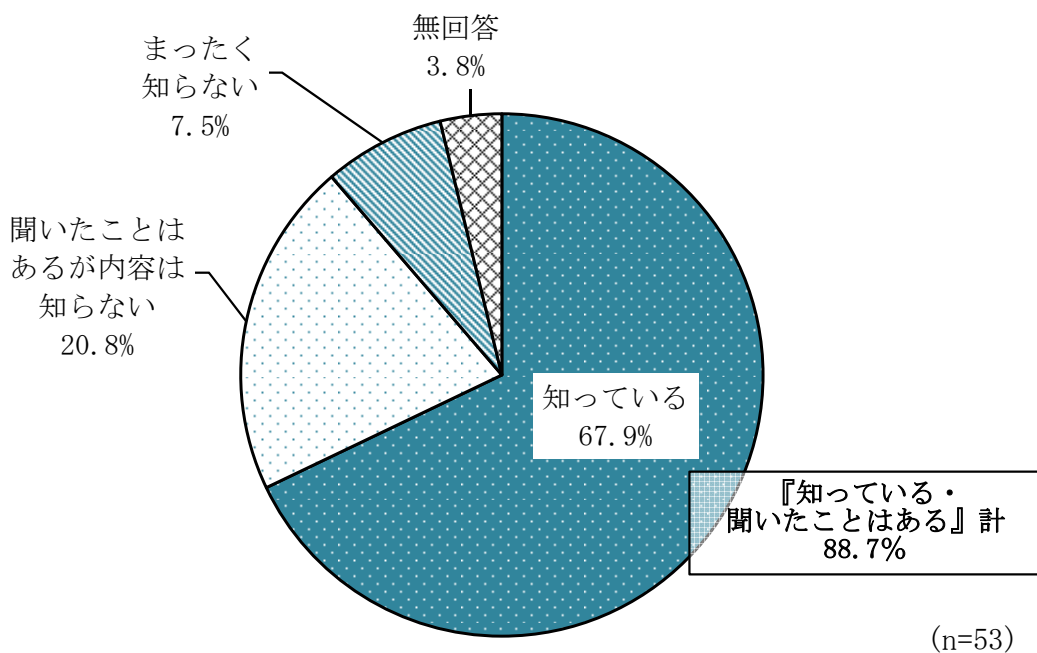
図3-2 国連のSDGs（エスディーゼーズ）の取り組みの認知状況
（地域別／性別／年代別）



(3) 国のSDGs（エスディージーズ）の取り組みの認知状況

問 (1) で「1. 知っている」を選択した方にお伺いします。

現在、国（SDGs推進本部）で進めているSDGsの取り組みを知っていますか？（〇は1つだけ）



—— 国のSDGs（エスディージーズ）の取り組みを知っている
又は聞いたことがある市民は9割 ——

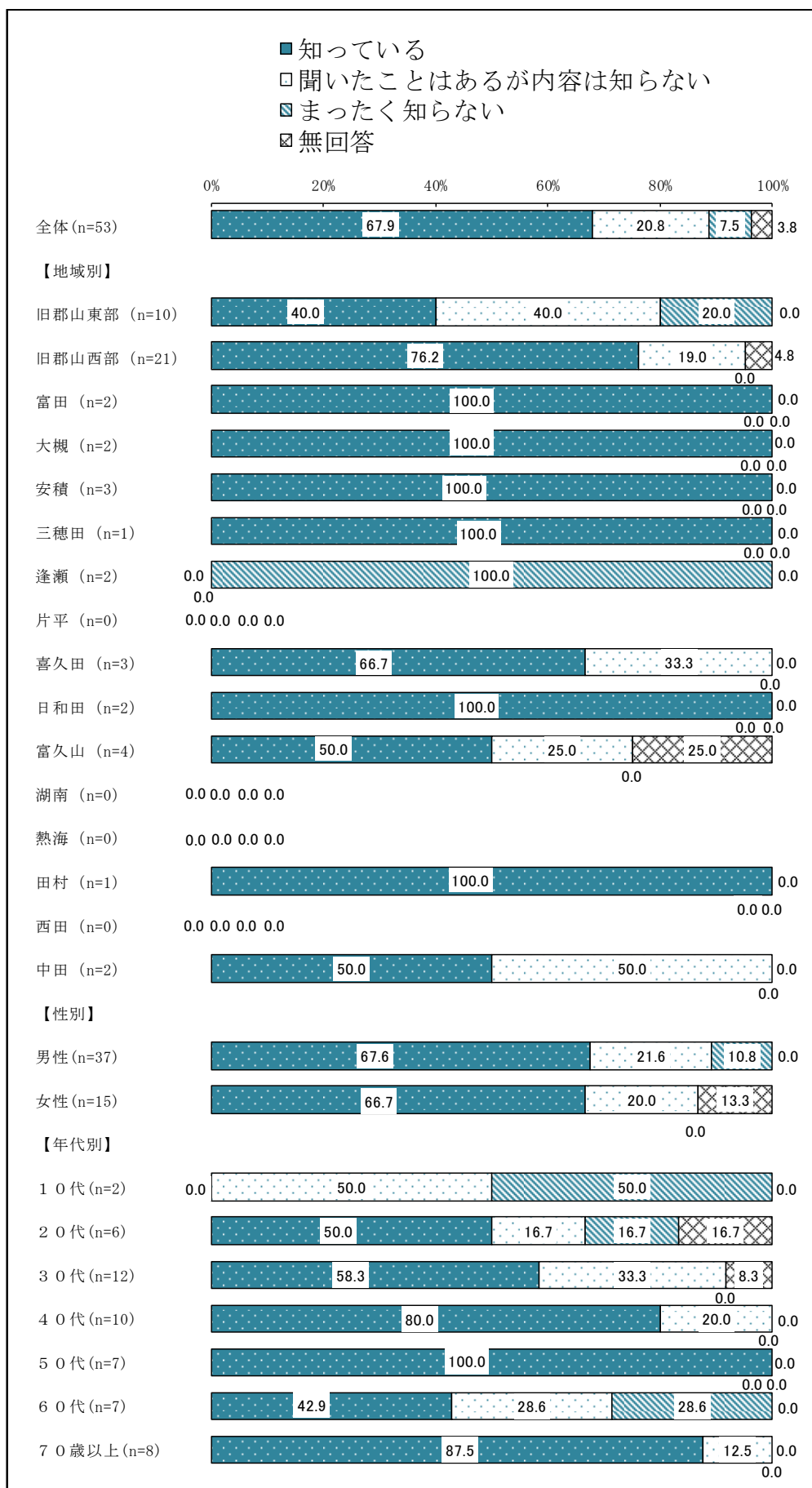
【全体結果】

国（SDGs推進本部）のSDGs（エスディージーズ）の認知状況については「知っている」（67.9%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（20.8%）で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計（88.7%）は約9割となっています。

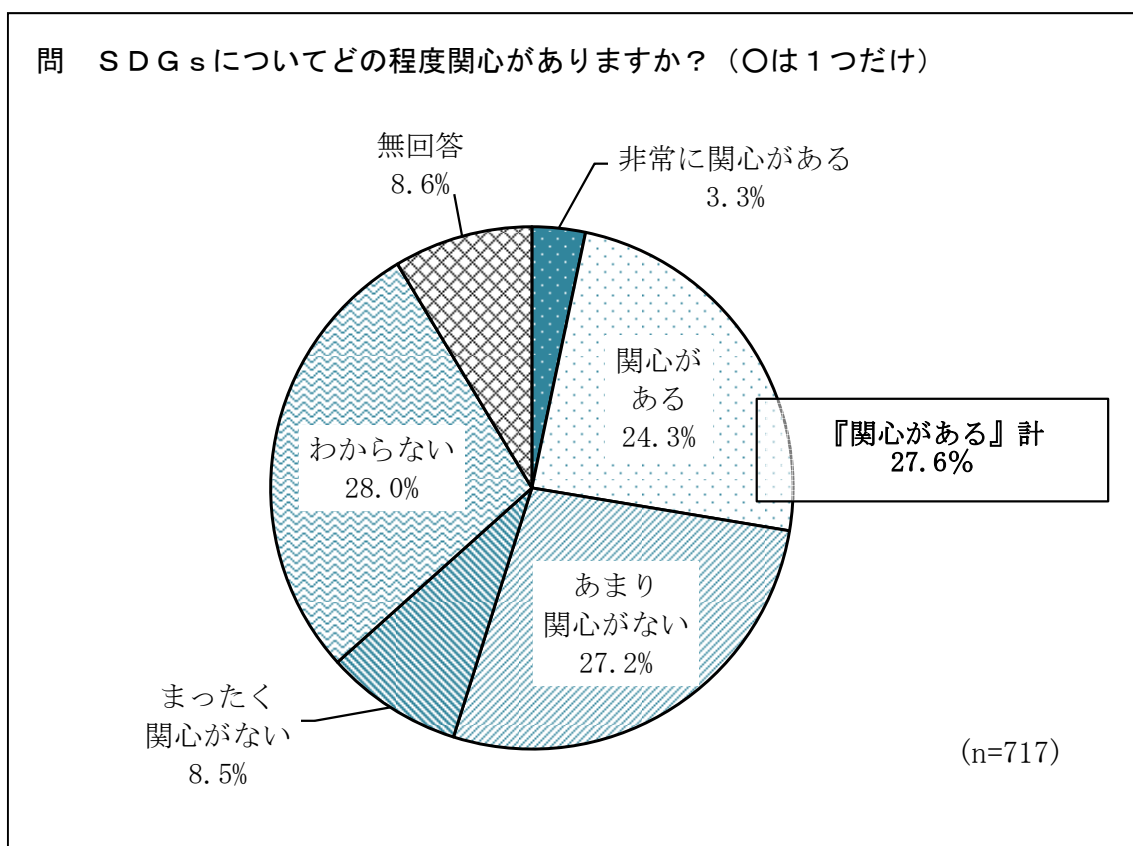
【属性別結果】（図 3-3 参照）

※該当者数が少ないため、属性別結果については図のみの掲載に留めました。

図3-3 国のSDGs（エスディーズ）の取り組みの認知状況
（地域別／性別／年代別）



(4) SDGs（エスディージーズ）の関心度



SDGs（エスディージーズ）について 関心を示している市民は3割

【全体結果】

SDGs（エスディージーズ）の関心度については「非常に興味がある」（3.3%）、「興味がある」（24.3%）で両者を合計した『興味がある』計（27.6%）は約3割となっています。

17のゴールと市民生活の関連性が分かりにくいことも考えられることから、一層の普及啓発に努める必要があります。

【属性別結果】（図3-4参照）

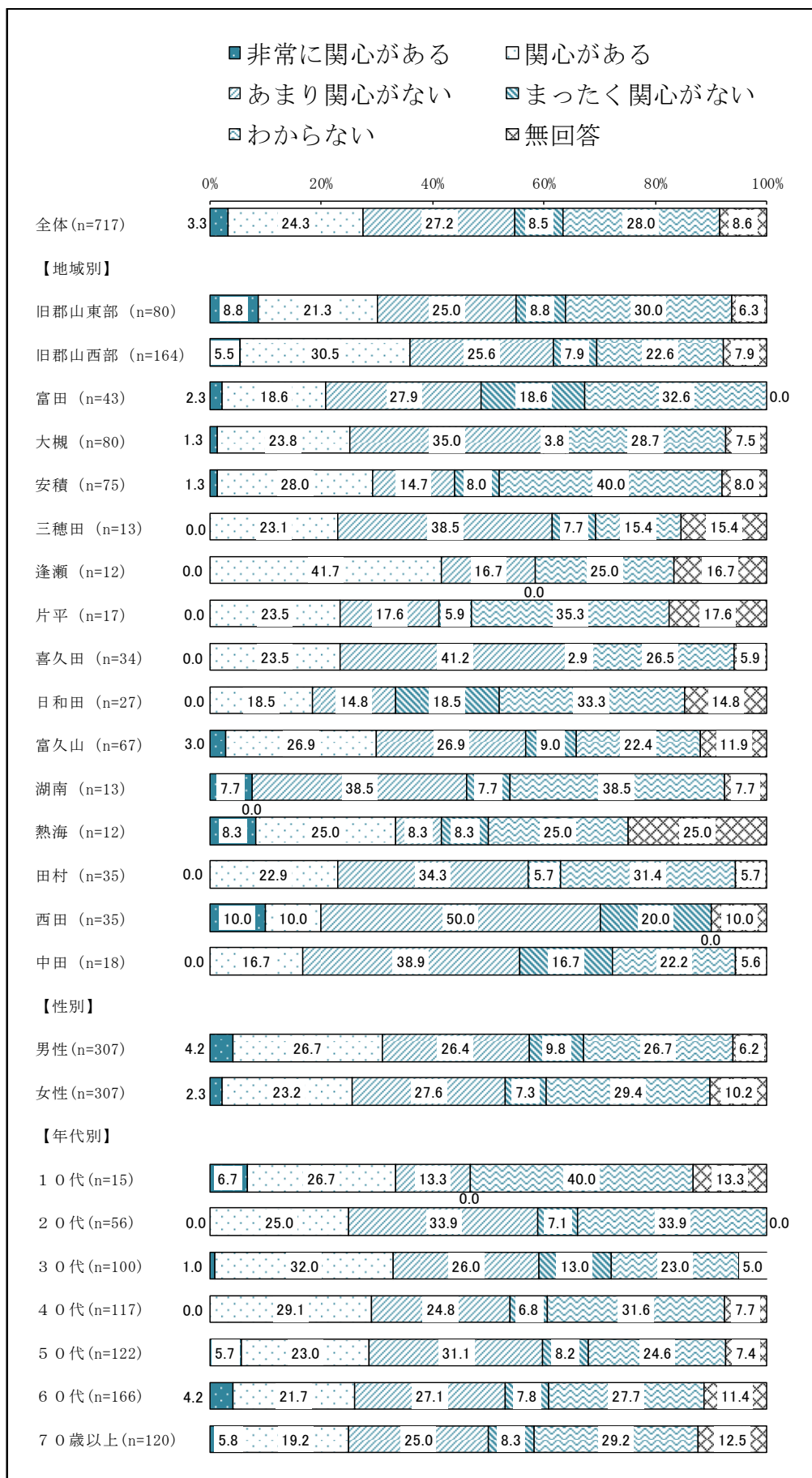
①性別

『興味がある』計の割合は、男性（30.9%）の方が女性（25.5%）よりも高くなっています。

②年代別

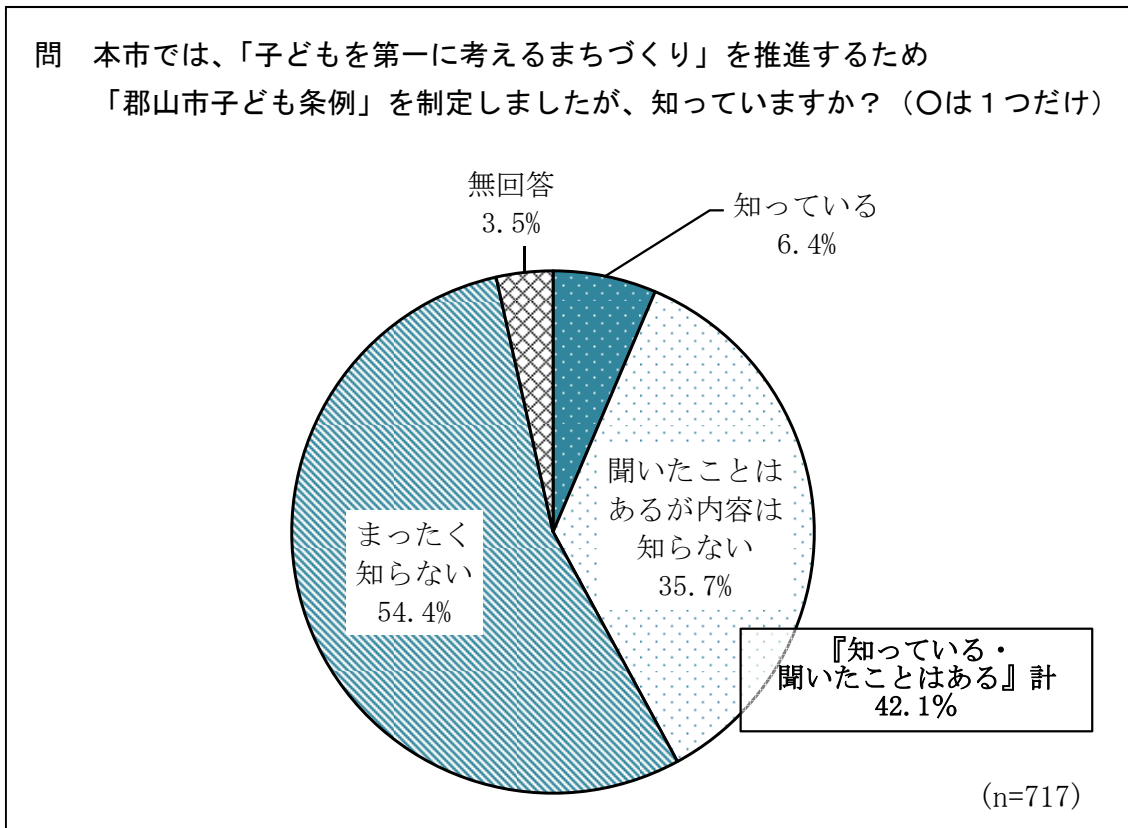
『興味がある』計の割合は、30代（33.0%）で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代、70歳以上（25.0%）でした。

図3-4 SDGs（エスディーズ）の関心度（地域別／性別／年代別）



4. 「郡山市子ども条例」について

(1) 「郡山市子ども条例」の認知状況



— 「郡山市子ども条例」を知っている又は聞いたことがある市民は4割 —

【全体結果】

「郡山市子ども条例」の認知状況については「知っている」(6.4%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(35.7%)で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計(42.1%)は約4割となっています。

一方、「まったく知らない」(54.4%)は過半数を占めています。

「郡山市子ども条例」は、広報こおりやまの特集記事掲載、郡山市こどもまつりでの展示等で周知を図るなどの成果により、4割超に認知されていますが、今後もさらに周知していく必要があります。

【属性別結果】(図 4-1 参照)

①性別

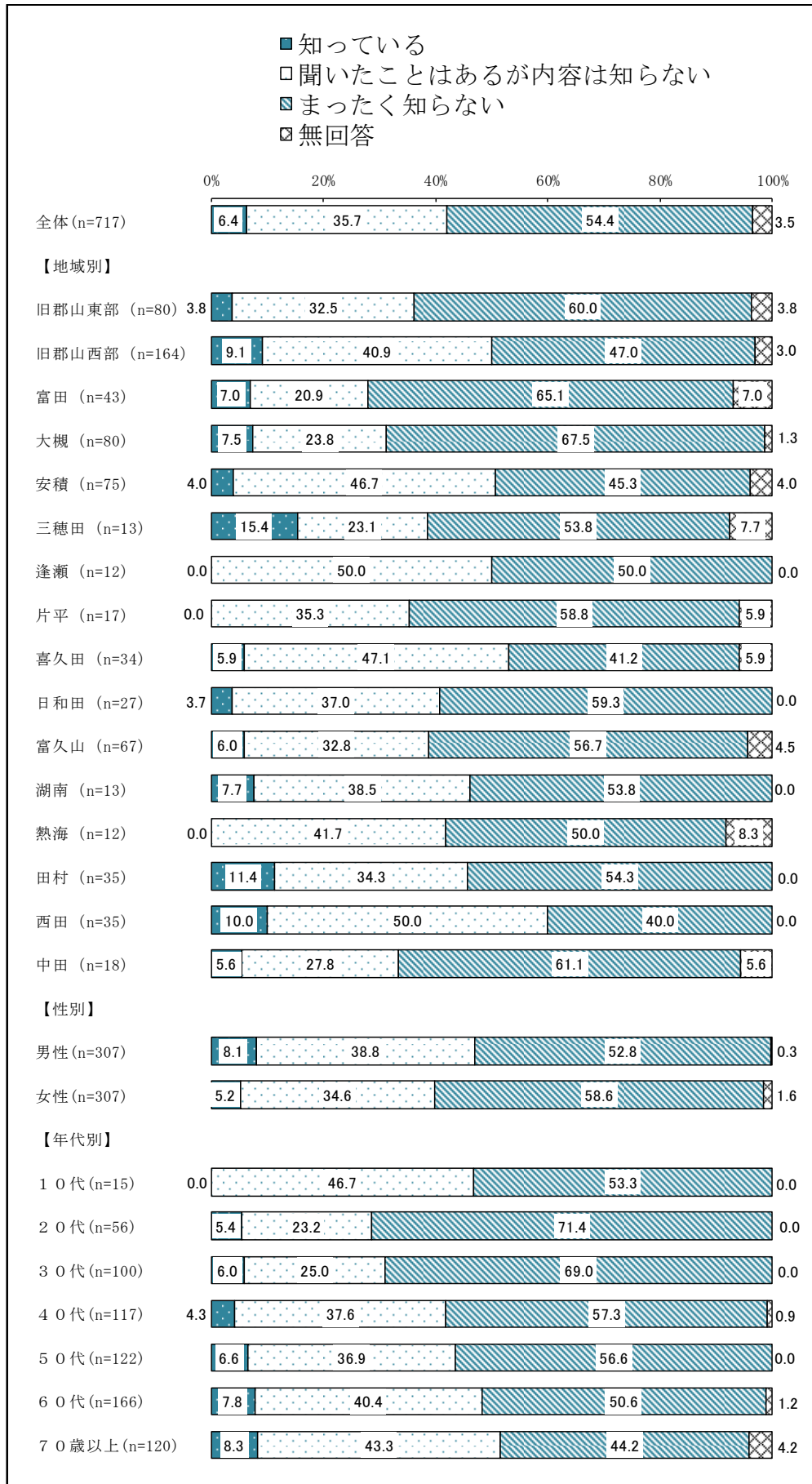
『知っている・聞いたことはある』計の割合は、男性(46.9%)の方が女性(39.8%)よりも高くなっています。

②年代別

『知っている・聞いたことはある』計の割合は、70歳以上(51.6%)で最も高くなっています。

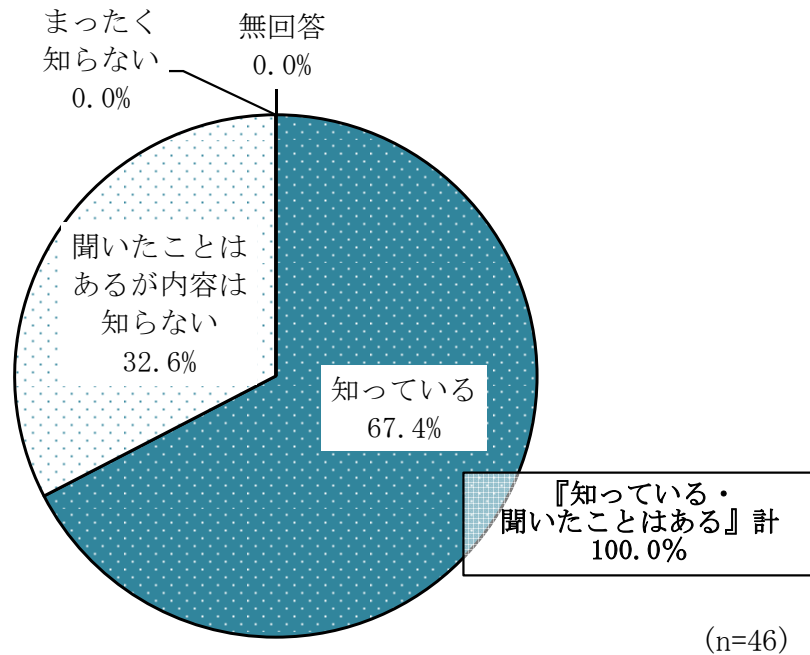
一方で、最も低いのは20代(28.6%)でした。

図 4 - 1 「郡山市子ども条例」の認知状況（地域別／性別／年代別）



(2) 子どもを取り巻く大人たちの責務の認知状況

問 (1)で「1. 知っている」を選択した方にお伺いします。
子ども条例の中の、子どもを取り巻く大人たちの責務を知っていますか？
(○は1つだけ)



——— 子どもを取り巻く大人たちの責務を知っている
又は聞いたことがある市民は10割 ———

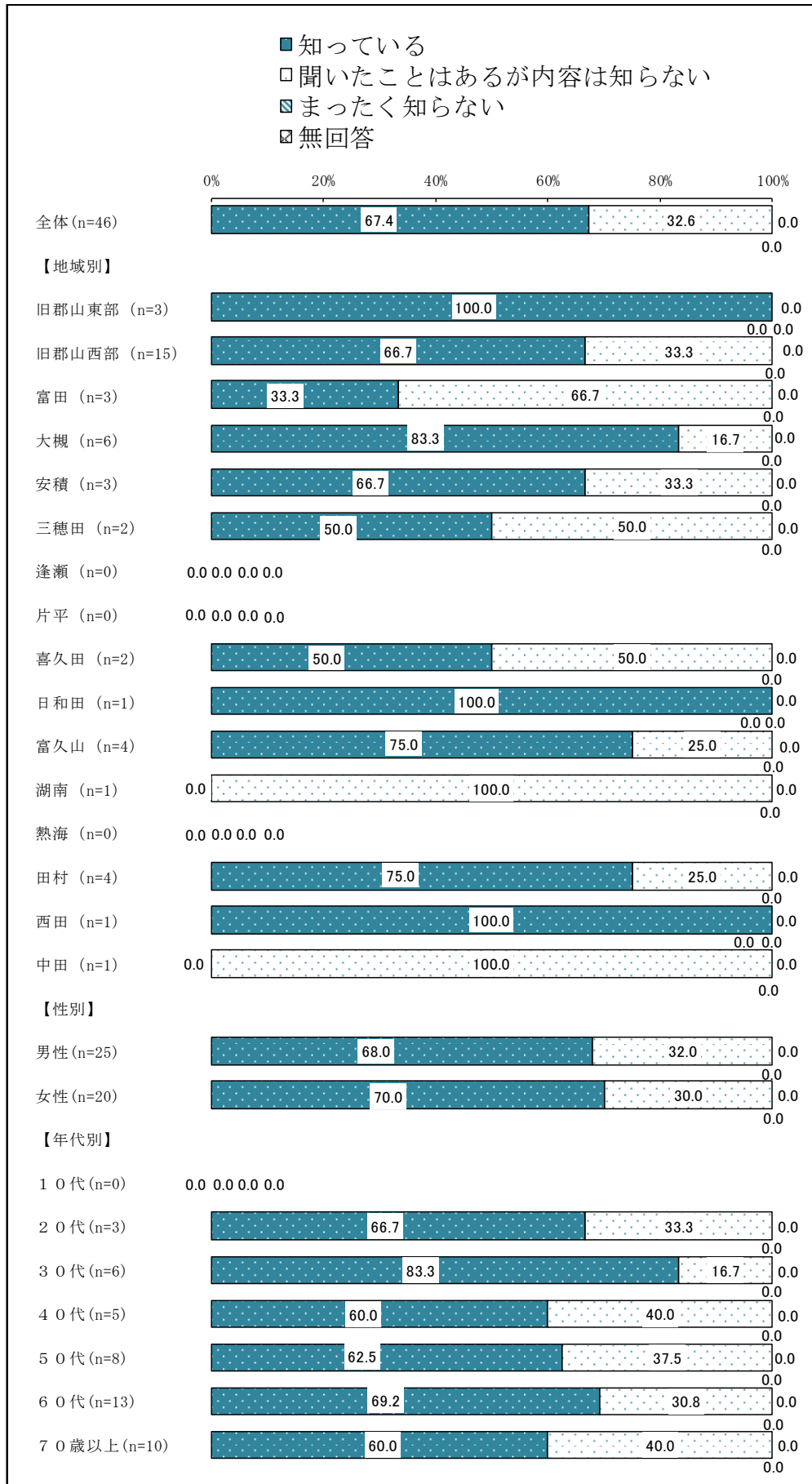
【全体結果】

子どもを取り巻く大人たちの責務の認知状況については「知っている」(67.4%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(32.6%)で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計(100.0%)は10割となっています。

【属性別結果】(図4-2参照)

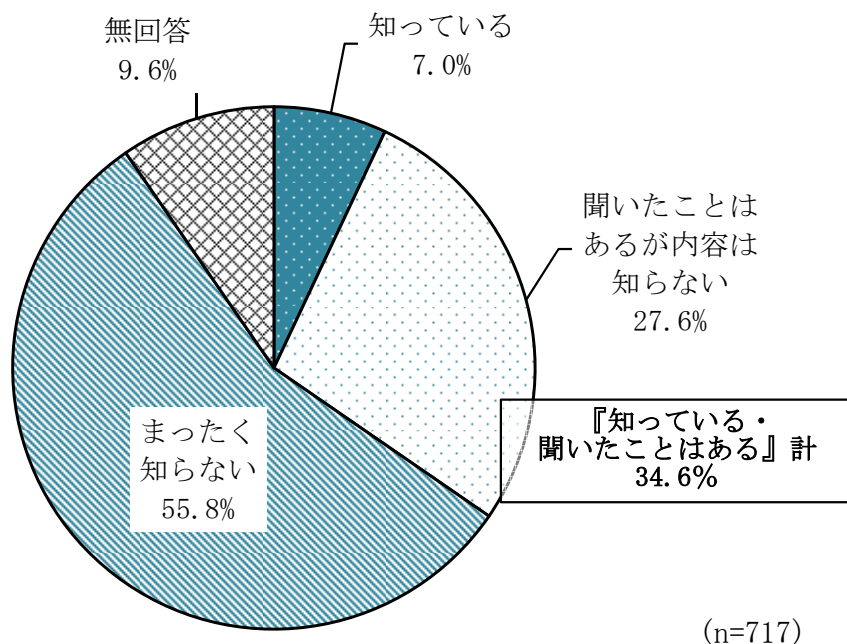
※該当者数が少ないため、属性別結果については図のみの掲載に留めました。

図 4-2 子どもを取り巻く大人たちの責務の認知状況（地域別／性別／年代別）



(3) 「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の認知状況

問 「郡山市子ども条例」の前提となっている「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を知っていますか？（○は1つだけ）



—— 「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を知っている
又は聞いたことがある市民は3割 ——

【全体結果】

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の認知状況については「知っている」（7.0%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（27.6%）で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計（34.6%）は約3割となっています。

「児童の権利に関する条約」は、「郡山市子ども条例」と併せて今後もさらに周知していく必要があります。

【属性別結果】（図 4-3 参照）

①性別

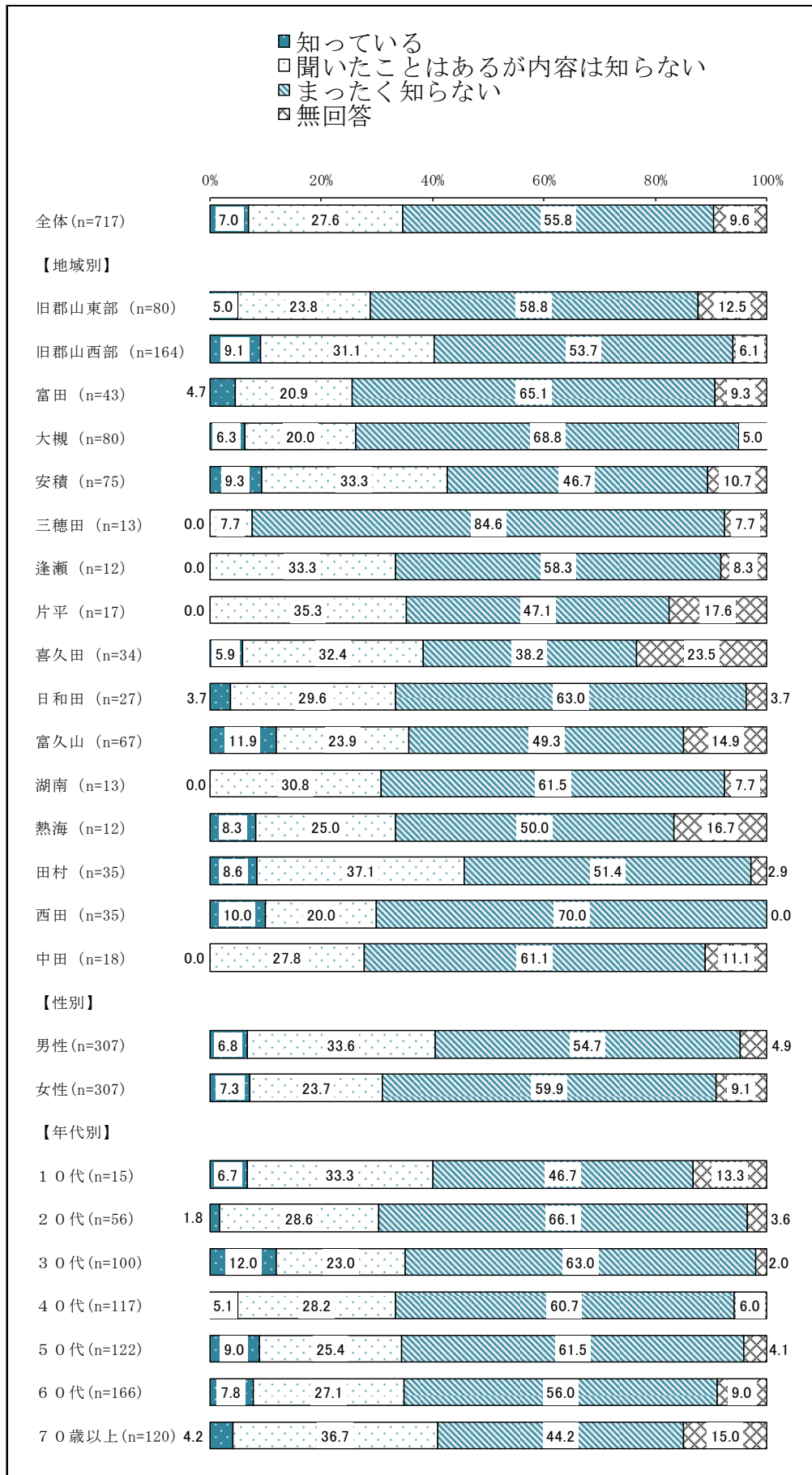
『知っている・聞いたことはある』計の割合は、男性（40.4%）の方が女性（31.0%）よりも高くなっています。

②年代別

『知っている・聞いたことはある』計の割合は、70歳以上（40.9%）で最も高くなっています。

一方で、最も低いのは20代（30.4%）でした。

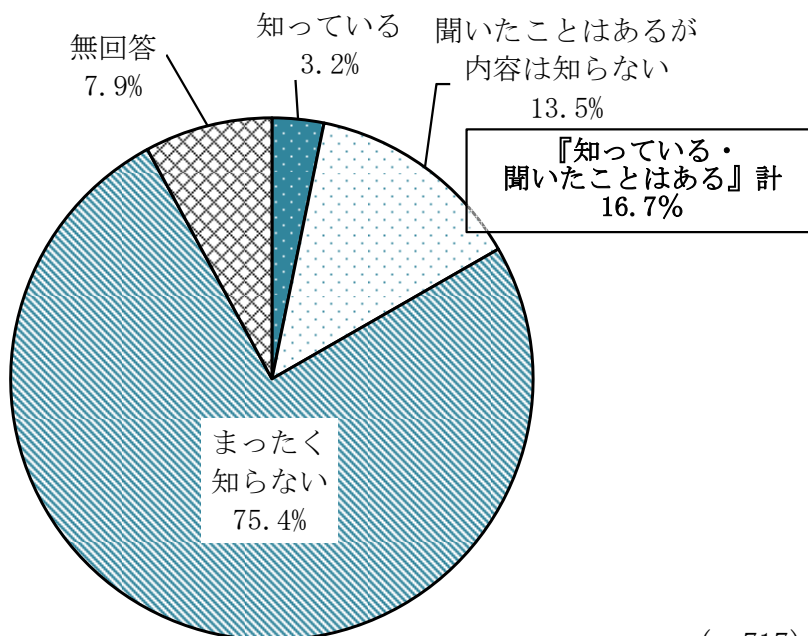
図4-3 「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の認知状況
（地域別／性別／年代別）



(4) 福島県ユニセフ協会との協定締結の認知状況

問 本市と福島県ユニセフ協会の間で、子どもが健やかに成長し、自立できる社会の実現のために、平成31年3月に協定を締結したことを知っていますか？

(○は1つだけ)



——— 福島県ユニセフ協会との協定締結を知っている
又は聞いたことがある市民は2割 ———

【全体結果】

福島県ユニセフ協会との協定締結の認知状況については「知っている」(3.2%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(13.5%)で両者を合計した『知っている・聞いたことはある』計(16.7%)は約2割となっています。

福島県ユニセフ協会との協定締結は、「郡山市子ども条例」と併せて、イベントや研修会等を通じ、今後もさらに周知していく必要があります。

【属性別結果】(図4-4参照)

①性別

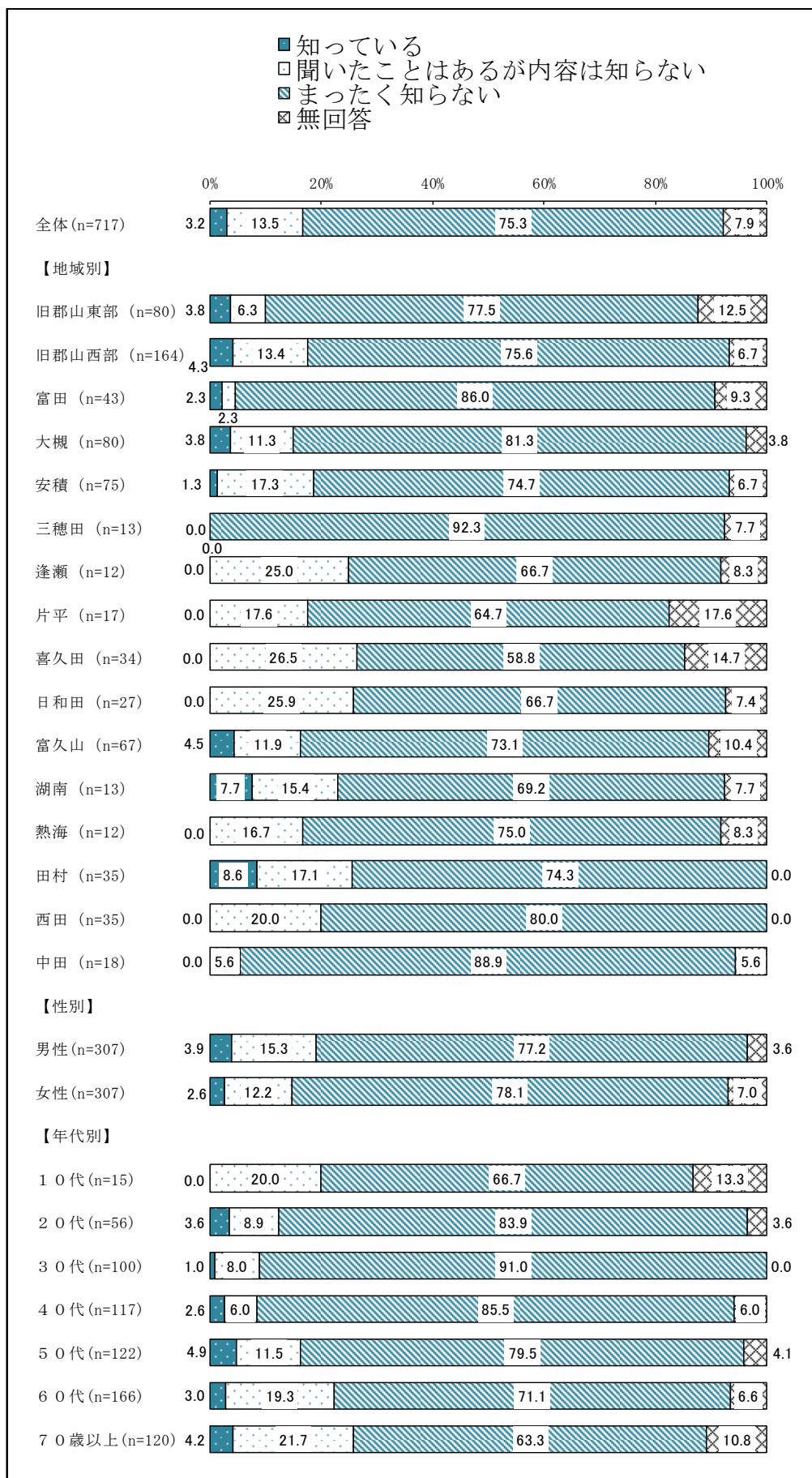
『知っている・聞いたことはある』計の割合は、男性(19.2%)の方が女性(14.8%)よりも高くなっています。

②年代別

『知っている・聞いたことはある』計の割合は、70歳以上(25.9%)で最も高くなっています。

一方で、最も低いのは40代(8.6%)でした。

図 4-4 福島県ユニセフ協会との協定締結の認知状況（地域別／性別／年代別）



5. 市への意見や要望など

問 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記載)

現在、郡山市が進めているまちづくり（取り組み）についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を分野ごとに抜粋し、掲載しました。

寄せられましたご意見につきましては、ここに掲載していないものも含め、今後の市政運営に活用させていただきます。

【分野Ⅰ】産業・仕事の未来

【地域産業】

- ・ 産業発展のためにやってることがたくさんあるのかもしれないけれど、アピールの仕方がよくないと思う。知らない人が多いと思う。だから定着しないのではないか。(女性・30代)

【起業支援】

- ・ 駅前の土地が有効利用されず、かといって、郊外に企業が進出しやすいような働きかけも見られない。雇用も少なく、Uターンをしようとしてもあまりの条件の悪さに、Uターンに踏み切れないのが現状。就職・転職に関して、各企業や転職サイト任せにせず、市として雇用の活性化を図るべきである。(男性・30代)

【産業創出・企業誘致】

- ・ 雇用・就労を充実させるには働く環境を整える必要があると思う。そのためには企業誘致などに力を入れてもらい、若い人が定着（定住）できる市になるとよい。(女性・50代)

【雇用・就労】

- ・ 低賃金が多いせいか、外国人が徐々に増えているので、日本人の雇用にしっかり力を入れてほしい。(男性・30代)

【農林業】

- ・ TV などを見ていると他地方で若い人が農業をするために移住するという番組が流れていた（放映されていた）。市としても何か目玉となるものが生まれる下地を考えてほしい。(男性・60代)

【特産品ブランド化】

- ・ 農作物の特産品化をもっと進めてほしい。(男性・60代)

【分野Ⅱ】交流・観光の未来

【都市間交流・国際交流・関係人口】

- ・ 海外と交流（姉妹都市）等により、商工会でアピールしていったらよいのでは。
（女性・70歳以上）

【歴史・文化遺産】

- ・ 日本遺産（安積疏水）を若年者を含め周知しては。（男性・50代）

【音楽のまちづくり】

- ・ 音楽のまちをもっとアピールし、郡山ならではの大きな音楽祭（有名人と合唱する）などわくわくするイベントをしたらどうでしょうか。駅ナカや街角でオルゴールのような美しい音楽が流れていたらいいなあ。GReeeeNさんの音楽など。
（女性・40代）

【観光】

- ・ 巨大商業施設（アウトレット、コストコ、ショッピングモール等）でも観光及び交流の増加が図れると思う。キャンプ場（市営）も作ってほしい。（男性・30代）

【シティプロモーション】

- ・ 箭内夢菜さん出演の郡山のPVは東京に住んでいる子どもからおしえてもらいました。「泣けた。郡山に戻りたい」と言っていました。このような企画は若者へのアピールになるので続けてほしい。（女性・50代）

【分野Ⅲ】学び育む子どもたちの未来

【子育て】

- ・ 子育てに関しては、NPOや個人の保育に関する支援が行われており、働きやすい環境が出来てきていると思う。ただし、保育士の就業条件は他県の方が圧倒的に良く、保育士確保が進んでいるようには見えない。教育については、情報教育・外国語教育などは、20年前から殆ど変わっていないように思える。（男性・30代）

【乳幼児教育・家庭教育】

- ・ 郡山の子どもたちがどんな教育を受けているのか、親だけでなく「大人」に知ってもらえる告知やイベント、「大人」の意見をとりいれられる環境を整えてほしい。郡山で育つことに誇りをもってもらえるようになってほしい。（女性・30代）

【青少年健全育成】

- ・ 特に下校時や夕方など歩く大人が少なく子どもの安全に不安があるので見守り歩きを強化してほしい。（女性・30代）

【学校教育】

- ・ 学校内でこれからの時代に求められる資質、能力を十分に身に付けられる教育環境は東京圏と比べると整えられていないと感じる。優秀な学生を育てることも郡山の発展につながると思う。（女性・20代）

【地域学習】

- ・ 地域学習に於いては、郡山の歴史を重点に学ぶ必要があると思料される。
（男性・50代）

【分野Ⅳ】誰もが地域で輝く未来

【市民協働】

- ・ 核家族や若い人たちが地域に参加していける場所や交流の場をふやしてほしい。
(女性・20代)

【地域コミュニティ】

- ・ 地域コミュニティの活性化については、それぞれの地域に差が出てしまうのは致し方がないが、行政区長会等の会合への職員の参加がある時、今以上に発信してもよいと思う。(男性・40代)

【広聴広報】

- ・ 広報紙でいろいろ情報を得る事はできるでしょうが、なかなか読む機会が少ない人も多いと思います。ウェブサイトもリニューアルされ見やすいページになったと思うので多くの人に活用していただけるように呼びかけも大切かと思います。
(女性・30代)

【スポーツ・文化・芸術】

- ・ 楽都郡山なのでもう少し芸術や音楽に関する施設、コンサートや映画館を増やすとよいと思います。文化センターもやや老朽化しているし、車社会の郡山ではコンサートや映画も駐車場がないと気軽に楽しむことが出来ず難しいのが現状です。
(男性・40代)

【生涯学習】

- ・ 生涯学習、習い事、カルチャーを発表する所を雨の中でも利用できる駅前広場にしてほしい。以前にイベントで駅前広場を借りてテントを建ててやろうとしたら雨で中止。新聞社まで来るはずだったのに。(女性・60代)

【地域福祉】

- ・ 震災後、色々な地域で住宅が増えたが、町内会に入会をしていない家庭も多く地域や隣近所の様子等が分からず助け合い（独居老人の方なども）は難しい現状ではあると思う。(女性・30代)

【高齢者福祉】

- ・ 地域で高齢者の見回りをするが、介護事業者がさらに見まわりをして、健康・コミュニティを図るべきである。市が各行政センターごと、月2回ほど市民とのコミュニティをとるべきである。(男性・60代)

【障がい者福祉】

- ・ 障がい者に対する制限が郡山市は厳しすぎる。(女性・30代)

【健康づくり】

- ・ トレーニングジムなどを安く利用できる施設を増やしてほしい。(男性・30代)

【医療】

- ・ 福祉についてはあまり知る機会が無いので分からない。医療は大きな病院もたくさんあるし、恵まれていると思う。(女性・30代)

【男女共同参画】

- ・ 依然として男女差別が横行している。(女性・60代)

【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来

【環境活動】

- ・ 環境維持に向けた取り組みはもっと市民にアピールしてもよいと思う。
(男性・40代)

【3R（資源の有効利用）】

- ・ 公共機関にリサイクルボックスを置くとよい。(アルミ缶や古紙回収など) ごみの日だけでは忙しく出せないときもあると思う。(女性・50代)

【エネルギー】

- ・ 再生可能エネルギー等の設置に関する支援策が十分か。施設設置に関して公的支援は？(男性・60代)

【自然環境】

- ・ 特に、まちなかにある「せせらぎ小道」は、自然も感じられるしちょっとした気分転換にもなってとってもよかったです。もう少し増えるといいなあと感じている部分があります。(女性・20代)

【防災】

- ・ ゲリラ豪雨に対応した防災対策、慢性的な渋滞を減らす為の抜本的対策、公共施設の駐車場拡充が必要かと。(男性・30代)

【防犯・交通安全・消費者対策】

- ・ 防犯に関して、東京の様に交番におまわりさんが立っているとかがいつも自転車で見回るとか抑止力になる行動をもっと積極的にとってほしい。それだけでも町全体の安心感が高まるしよくなると思う。最近よく外国人が3人以上で歩いているのをみかけるとちょっと子どもたちを夕方歩かせるのは心配だなと思ったりする。偏見もあるかもしれないけれど防げることは防いでいてほしい。
(女性・30代)

【ユニバーサルデザイン】

- ・ 外国人の方が暮らしやすいようにすべてのお店で英語の対応力に力を入れたほうがよい。(女性・20代)

【交通・道路】

- ・ 道路が整備されており生活に必要な拠点や施設へ容易に行くことができ、とても住みやすいと思う。公園も近くに何か所かあり、子どもができた時も安心して暮らせそう。(女性・20代)

【計画的な都市づくり】

- ・ まず、ほとんどの質問項目について、暮らしやすい街を作るために、市がどういう取り組みをしてどのような展望を持っているのか市民は殆ど知らないと思う。なので殆ど「わからない」という回答になる。中心街の活性化については、あの駅前を見て活性化してると思う観光者はいないだろう。会津や福島、いわきに行くための中継点でしかないと思う。各施設への交通だが、介護タクシーがすくないなど、高齢化に即した交通環境は作れていないと思う。駅から離れるとバスの数も少なく、高齢者の運転が疑問視されてる今、郡山が対策を取っているとも思えない。
(男性・30代)

【住環境】

- ・ 地域の中の小さな公園や市道の整備に努めてほしい。(男性・70歳以上)

【分野Ⅵ】横断的取組

【除去土壌等の搬出】

- ・ 除去土壌の搬出計画を具体的に公表してほしい。(男性・60代)

【健康管理】

- ・ 健康管理に関してはいろいろな考え方がある。心配する人へのケアや対応は必要とする人にすぐに応じられる体制を作っております。それでいいと思う。必要と思って何年も被爆検査の用紙が届き、負担に感じた。今後も送付してほしいか意志を確認できるようにしてほしい。(女性・50代)

【風評の払しょく】

- ・ 風評の払しょくについてはよくがんばってると思います。他県の野菜より県内の野菜はとておいしので払しょくされれば販売拡大につながるので頑張ってもらいたい。(女性・30代)

【分野Ⅶ】基盤的取組

【行政経営】

- ・ 行政の基盤が変わったかどうか、開発が目標通りに進められているか、それは行政であるそちらにしかわからないと思う。市民は開発目標を定期的に聞いているわけではなく、基盤の違いの説明を受けてるわけでも、行政に多々触れていないので。(男性・30代)

【セーフコミュニティ】

- ・ 狭い通学路が色分けされていたり、信号が見やすいものになっていたりはいいと思う。郡山市の目標像みたいなものがどんなものかよく分からない。(女性・30代)

【連携中枢都市圏構想】

- ・ こおりやま広域連携中枢都市圏形成に向けて郡山市近隣の市町村と連携をしたことにより今後のさらなる発展、郡山から発信し福島を盛り上げてほしいと思う。(女性・20代)

【SDGs】

- ・ SDGsは会社や所属している団体でも取り組んでいて個人的にもできるところから行動しています。でも、まだまだ浸透しているとは全く感じられません。口先だけうたってるようにみえます。(女性・50代)

(付) 調 査 票 様 式

あなたの声をお聞かせください

～ 2019年度郡山市民意見レーダー ～



<ご記入に当たってのお願い>

- この調査は、市内にお住いの満18歳以上の方々の中から、1,500人を無作為に選び、郵送された調査票にお答えいただく方法で実施いたします。
- この調査は無記名式で、回答は統計的に処理いたしますので、ご協力いただいた方を特定することやご迷惑をおかけすることは一切ございません。
ぜひ、率直なご意見やお考えをお知らせください。
- この調査は、個人を対象にしていますので、あなた（あて名の方）ご自身の判断でお答えください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。また、ご回答は、「あてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください」「あてはまる番号をいくつでも選び○をつけてください」等と質問文に対応したご記入をお願いいたします。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）をお使いのうえ、切手を貼らずに**5月31日（金）**までに、郵便ポストに投函してください。
調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

また、スマートフォン・パソコンからもご回答いただけます。
右記のQRコード、又は下記の検索等でアクセスのうえご利用ください。

〔アクセス方法〕

⇒ 「ふくしま電子申請」を検索

⇒ 「ふくしま県市町村共同電子申請システム団体選択-福島県ホームページ」
をクリックし「郡山市」を選択 ⇒ 「2019年度郡山市民意見レーダー」を選択



〔入力方法〕

1. 「かんたん申請・申込システム」の画面に移行します。ひとつの画面入力が終わりましたら「次へ」をクリックしてください。
 2. 内容確認の画面が出ますので、修正がなければ「送信する」をクリックしてください。
 3. 「受け付け」の画面が出たら終了です。
※ 入力による回答は、**5月31日（金）**までをお願いします。
- ※ 入力できる時間は**1時間以内**です。入力から1時間過ぎますと送信できなくなりますので、その際は改めてはじめてから入力をお願いします。

- ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

<お問合せ先> 郡山市政策開発部広聴広報課

電話：024-924-2061

Email: kocho@city.koriyama.lg.jp

1 郡山市の住みやすさについて

まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じているか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

(1) あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？

1. 住みやすい	4. どちらかといえば住みにくい
2. どちらかといえば住みやすい	5. 住みにくい
3. どちらともいえない	

↓

【「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」とお感じになる理由をご自由にお書きください。】

(2) あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？

1. 現在の住所にずっと住み続けたい	4. いずれは市外に住みたい
2. 市内の別の地域に住みたい	5. 住みたくない
3. どちらともいえない	

↓

【「いずれは市外に住みたい」または「住みたくない」とお考えになる理由をご自由にお書きください。】

2 郡山市のまちづくりについて

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

【1. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野)	よ				わ か ら な い
	5	4	3	2	
1. 地域産業 地域の中小企業の事業承継 ※1 やM&A ※2 をはじめ、産業の新陳代謝や持続的発展など活性化が図られているか ※1 会社等の経営を後継者に引き継ぐこと ※2 合併・買収	5	4	3	2	1
2. 起業支援 創業・起業がしやすい環境が整っているか	5	4	3	2	1
3. 産業創出・企業誘致 研究開発機関や大学等との連携により、再生可能エネルギー ※3 や医療機器関連産業など本市の強みを活かし、新しい分野の産業や企業の育成、誘致・集積等、産業の振興が図られているか ※3 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1
4. 雇用・就労 市内企業の安定的な雇用があり、やりがいを持って就労できる労働環境が整っているか	5	4	3	2	1
5. 農林業 農林業の生産性向上、担い手の確保等により活性化が図られているか	5	4	3	2	1
6. 特産品ブランド化 食や農を生かした特産品がブランド化され、注目されているか	5	4	3	2	1

【1. 産業・仕事の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	よ い	ど ち ら か と い え ば よ い	ど ち ら か と い え ば 不 満	不 満	わ か ら な い
7. 都市間交流・国際交流・関係人口 ※1 様々な地域や国の人々との交流・活動を通じ、友好や相互理解を深める等、国内外に開かれたまちとなっているか ※1 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者	5	4	3	2	1
8. 歴史・文化遺産 日本遺産など豊かな歴史に根ざした地域資源が適切に保存されるとともに観光のまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
9. 音楽のまちづくり 音楽に触れる機会や環境が整い、音楽がまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
10. 観光 観光誘客や観光資源の活用及びコンベンション ※2 の誘致により国内、インバウンド ※3 の観光客等が増加しているか ※2 企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等 ※3 入ってくるものという意味から転じて、外国（区域外）から訪れる旅行を指す。 対義語：アウトバウンド	5	4	3	2	1
11. シティプロモーション ※4 本市の魅力が広く内外に発信され、知名度が向上し、交流人口増加や移住・定住の促進が図られているか ※4 地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法	5	4	3	2	1
【Ⅱ. 交流・観光の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)	よ い	ど ち ら か と い え ば よ い	ど ち ら か と い え ば 不 満	不 満	わ か ら な い
12. 子育て 安心して生み育てる環境が整っているか	5	4	3	2	1
13. 乳幼児教育・家庭教育 家庭、地域、企業そして子育て・教育機関が連携して、子育てや教育を学びあう環境が整っているか	5	4	3	2	1
14. 青少年健全育成 子どもたちの安全な居場所や地域での見守りなど、健全に育つ環境が整っているか	5	4	3	2	1
15. 学校教育 子どもたちの「生きる力」となる思考力、判断力、表現力等を育み、これからの時代に求められる英語やICT ※1 教育などの資質・能力を身につけられる質の高い教育環境が整っているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1
16. 地域学習 子どもたちの地域への愛着を育む、地域活動への参加機会や地域の産業、生活、文化、歴史などを学ぶ環境が充実しているか	5	4	3	2	1
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【IV. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	よ い	ど ち ら か が よ い	ど ち ら か が よ い	不 満	わ か ら な い
17. 市民協働 ※1 市民誰もが、知識や経験、個性に応じ、様々な社会参加ができる機会や場があるか <small>※1 市民・市民活動団体・企業・行政等が、お互いの立場や特性、目的を認め合い、役割を分担した上で対等の立場で協力し合うこと</small>	5	4	3	2	1
18. 地域コミュニティ 町内会活動など地域コミュニティの活性化が図られているか	5	4	3	2	1
19. 広聴広報 市政に関する情報の公開や市民からの意見・提案の募集、市民参加のイベントなど市政への市民参画が図られているか	5	4	3	2	1
20. スポーツ・文化・芸術 多様なスポーツ、文化・芸術に触れる機会や活動する場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
21. 生涯学習 生涯を通じて、好きなこと、得意なことを学習でき、それらを地域社会で生かせる機会や場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
22. 地域福祉 地域や隣近所で互いに支えあい、助け合う体制が整っているか	5	4	3	2	1
23. 高齢者福祉 介護予防対策や介護サービスの質の確保・向上など高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境が整っているか	5	4	3	2	1
24. 障がい者福祉 障がい者差別の解消や就労等社会参加の促進など障がい者の生活を支える環境が整っているか	5	4	3	2	1
25. 健康づくり 生活習慣病予防対策、健診体制や健康相談等、健康に暮らすための支援体制が充実しているか	5	4	3	2	1
26. 医療 必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制が充実しているか	5	4	3	2	1
27. 男女共同参画 家庭や地域、職場において、男女が共に個性と能力を発揮できているか	5	4	3	2	1
<u>【IV. 誰もが地域で輝く未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。</u>					

【V. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	よ	い	ど	ど	不	わ
			どちらかといえ	ど	満	から
			ば	ち		ない
			よ	ら		
			い	か		
			え	か		
			い	い		
			え	え		
28. 環境活動 温室効果ガス排出量の削減に向けた普及啓発等、環境負荷が少ないまちづくりへの取り組みが進んでいるか	5	4	3	2	1	
29. 3R ※1 (資源の有効利用) ごみ減量、リサイクルの推進等、ごみの発生を抑え、資源を有効に循環させる取り組みが進んでいるか <small>※1 「Reduce (発生抑制)」「Reuse (再利用)」「Recycle (再生利用)」の頭文字をとった言葉</small>	5	4	3	2	1	
30. エネルギー 省エネルギーの推進や環境にやさしい再生可能エネルギー ※2 の普及に向けた取り組みが進んでいるか <small>※2 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと</small>	5	4	3	2	1	
31. 自然環境 豊かな自然が適正に保全され、それらと身近にふれあえる環境が整っているか	5	4	3	2	1	
32. 防災 ライフラインの確保や情報の共有化、消防、救急体制の整備、自然災害対策等、防災に対する備えができてきているか	5	4	3	2	1	
33. 防犯・交通安全・消費者対策 犯罪の未然防止、通学路や生活道路等の交通安全対策、消費者対策により、安心して生活することができているか	5	4	3	2	1	
34. ユニバーサルデザイン ※3 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが快適に暮らすことができる取り組みが進んでいるか <small>※3 障がいの有無や年齢、国籍、性別などの違いに関わらず、はじめからできるだけ多くの人が使いやすい製品や建物、都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方のこと</small>	5	4	3	2	1	
35. 交通・道路 生活に必要な拠点や施設へのアクセスが容易であるなど、利便性の高い交通体系が整っているか	5	4	3	2	1	
36. 計画的な都市づくり 「こおりやま広域圏」の玄関口として、中心市街地の活性化や地域特性を生かした魅力的なまちとなっているか	5	4	3	2	1	
37. 住環境 公園や生活道路、上下水道等が整備されているとともに、景観への配慮等、住環境が整っているか	5	4	3	2	1	
<u>【V. 暮らしやすいまちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。</u>						

【横断的取組】 (復興・創生の更なる推進)	よ い	ど ち ら か か ら い え ば よ い	ど ち ら か か ら い え ば 不 満	不 満	わ か ら な い
38. 除去土壌等の搬出 除染により生じた除去土壌等の搬出が進んでいるか	5	4	3	2	1
39. 健康管理 内部被ばく検査や自家消費野菜等の放射能検査、心や体のケアに関する健康相談体制の充実等、健康管理が図られているか	5	4	3	2	1
40. 風評の払しょく 郡山製品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等により、風評の払しょくが図られているか	5	4	3	2	1
【横断的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	よ い	ど ち ら か か ら い え ば よ い	ど ち ら か か ら い え ば 不 満	不 満	わ か ら な い
41. 行政経営 ICT ※1 の積極的な活用、官民連携による様々な手法やノウハウの柔軟な導入など先進的で効率的な行政経営の改善が図られているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1
42. セーフコミュニティ ※2 安全・安心に包まれたまちづくりのため、地域全体でセーフコミュニティ活動への取り組みを推進しているか ※2 WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証制度で「けがや事故」をデータから客観的に分析し、様々な団体との「協働」により「けがや事故」の予防に取り組んでいる地域のこと	5	4	3	2	1
43. 連携中枢都市圏構想 ※3 「連携中枢都市圏」の推進により、圏域全体の経済活性化や広域的な課題解決が図られているか ※3 一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想	5	4	3	2	1
44. SDGs ※4 2015年に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの取り組みが進んでいるか ※4 SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の頭文字を集めた言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。	5	4	3	2	1
【基盤的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

3 郡山市のこれからの取組について

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を1～44から5つ選び、その番号に○印をつけてください。

<p>【Ⅰ. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域産業2. 起業支援3. 産業創出・企業誘致4. 雇用・就労5. 農林業6. 特産品ブランド化 <p>【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)</p> <ol style="list-style-type: none">7. 都市間交流・国際交流・関係人口8. 歴史・文化遺産9. 音楽のまちづくり10. 観光11. シティプロモーション <p>【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)</p> <ol style="list-style-type: none">12. 子育て13. 乳幼児教育・家庭教育14. 青少年健全育成15. 学校教育16. 地域学習 <p>【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)</p> <ol style="list-style-type: none">17. 市民協働18. 地域コミュニティ19. 広聴広報20. スポーツ・文化・芸術21. 生涯学習22. 地域福祉23. 高齢者福祉24. 障がい者福祉25. 健康づくり26. 医療27. 男女共同参画	<p>【Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)</p> <ol style="list-style-type: none">28. 環境活動29. 3R(資源の有効利用)30. エネルギー31. 自然環境32. 防災33. 防犯・交通安全・消費者対策34. ユニバーサルデザイン35. 交通・道路36. 計画的な都市づくり37. 住環境 <p>【横断的取組】 (復興・創生の更なる推進)</p> <ol style="list-style-type: none">38. 除去土壌等の搬出39. 健康管理40. 風評の払しょく <p>【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)</p> <ol style="list-style-type: none">41. 行政経営42. セーフコミュニティ43. 連携中枢都市圏構想44. SDGs
---	--

4 SDGs（エスディージーズ）の関心度について

SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の頭文字を集めた言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。

2015年に国連で採択された2016年から2030年までの国際的な目標で、「持続可能な世界」を実現するための17のゴールと169の具体的なターゲットからなります。

郡山市でも、まちづくりの方向性をまとめた「郡山市まちづくり基本指針」の「第二次実施計画」にSDGsのゴールを位置づけ、内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が実施する「SDGs未来都市」に応募するなど、積極的にSDGsの達成に向けた取り組みを進めています。

以下の項目について、ご意見をお聞かせください。

- (1) SDGs（エスディージーズ）を知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

- (2) (1)で「1. 知っている」を選択した方にお伺いします。
2015年に国連で採択された国連のSDGsの取り組みを知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

- (3) (1)で「1. 知っている」を選択した方にお伺いします。
現在、国(SDGs推進本部)で進めているSDGsの取り組みを知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

- (4) SDGsについてどの程度関心がありますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|--------------|
| 1. 非常に関心がある |
| 2. 関心がある |
| 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない |
| 5. わからない |

5 「郡山市子ども条例」について

本市では、子どもに対する課題が多様化・複雑化する中、子どもが健やかに成長し、自立できる社会を実現するために、子どもへの支援についての基本的な考え方（基本理念）、大人たちの責務、市が取り組む子ども支援の基本的な施策、子どもを第一に考えるまちづくりの推進について規定した「郡山市子ども条例」を制定し、平成30年4月1日から施行いたしました。

以下の項目について、ご意見をお聞かせください。

- (1) 本市では、「子どもを第一に考えるまちづくり」を推進するため「郡山市子ども条例」を制定しましたが、知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

- (2) (1)で「1. 知っている」を選択した方にお伺いします。
子ども条例の中の、子どもを取り巻く大人たちの責務を知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

- (3) 「郡山市子ども条例」の前提となっている「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

- (4) 本市と福島県ユニセフ協会の間で、子どもが健やかに成長し、自立できる社会の実現のために、平成31年3月に協定を締結したことを知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

6 あなたご自身について

あなたご自身のことについてお伺いします。

(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(1) 性別 (あてはまる番号1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

(2) 年齢 (あてはまる番号1つに○)

1. 18歳～19歳	5. 50歳～59歳
2. 20歳～29歳	6. 60歳～69歳
3. 30歳～39歳	7. 70歳以上
4. 40歳～49歳	

(3) 職業 (あてはまる番号1つに○)

1. 農業	5. 主婦・主夫
2. 給与所得者	6. 学生
3. 自営業者	7. 無職
4. パート・アルバイトなど	8. その他

(4) 郡山市での居住年数 (あてはまる番号1つに○)

1. 1年未満	4. 10～19年
2. 3年未満	5. 20～29年
3. 3～9年	6. 30年以上

(5) 居住形態 (あてはまる番号1つに○)

1. 持ち家	4. 社宅、公舎など
2. 民間の借家・アパート	5. 間借、同居、寮など
3. 公営住宅	

(6) 現住所の直前に住んでいたところ (あてはまる番号1つに○)

1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる	4. 東京圏 ※1
2. 郡山市内の別の地域	5. その他 ※2 ()
3. 郡山市外で福島県内	

※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 ※2 福島県、東京圏以外の居住地

(7) 上の質問(6)で、「2.～5.」に○を付けた方にお聞きします。

移転先として現住所を選んだ理由は何ですか？ (あてはまる番号全てに○)

1. 生まれ育った場所だから	11. 病院・医院が近くにあるから
2. 自分や家族の持ち家だから	12. 住まいの周辺が静かだから
3. 寮や社宅に住むから	13. 自然環境が身近にあるから
4. 親や子、親族、友人などがいるから	14. まちなみや景観がよいから
5. 家賃や住宅の価格が手ごろだから	15. 賑わいや活気があるから
6. 交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから	16. 犯罪が少ないと感じているから
7. 日ごろの買い物などが便利だから	17. 街のイメージがよいから
8. 保育所・公園等の子育て環境がよいから	18. 郡山が好きだから
9. 学校などの教育環境がよいから	19. 市民の気質や感性が自分と合うから
10. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから	20. その他 ()

(8) お住まいの地域 (あてはまる番号1つに○)

1. 旧郡山東部 (芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など)
2. 旧郡山西部 (駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外)
3. 富田
4. 大槻
5. 安積
6. 三穂田
7. 逢瀬
8. 片平
9. 喜久田
10. 日和田
11. 富久山
12. 湖南
13. 熱海
14. 田村
15. 西田
16. 中田

◆市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。◆

以上で、質問は終わりです。皆様方からいただきました貴重なご回答・ご意見等は、郡山市の今後の市政運営に反映させていきたいと考えております。

お忙しいところご協力をいただき感謝申し上げます。

※ お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)をお使いのうえ、切手を貼らずに5月31日(金)までに、郵便ポストに投函してください。

調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

2019 年度 市民意見レーダー
調査結果報告書

令和元年 9 月 発行

郡山市政策開発部広聴広報課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

電話番号 024(924)2061

E-Mail:kocho@city.koriyama.lg.jp